

3x92

327-257

文 學 博 本
著 鄧 國 新 原

新編民國地圖



明治
京48.6.2 東
內交

弘道館發行

古歌と其私解とを掲げて序に代ふ

ちはやふる神の社し無かりせは

春日の原に粟まかましを

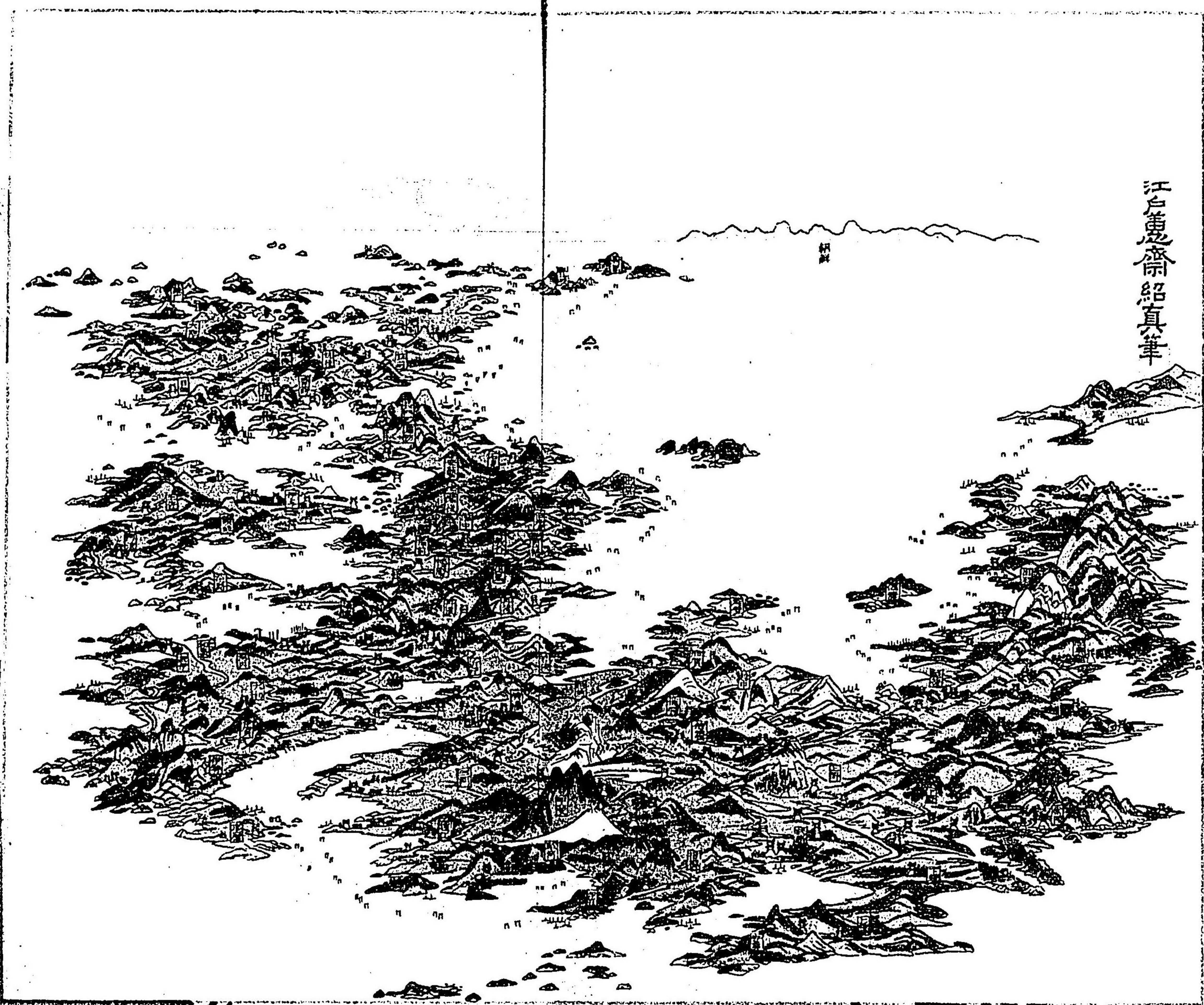
神を崇み祖を敬ふはこれ日本國民道德の根源
地を拓き穀を植うるはこれ日本民族發展の基礎
前人既に之を詠ず今人更に之に和し後人好く之を行
へば日本帝國の國是即ち舉らん
茲に國文國史に關係ある地理を講述するは亦この趣
旨の一端を宣揚せんとするにあり

明治四十三年春

著者識

はかなきこ
の小冊子な
がら東亞協
會々長井上
先生に捧げ
まつる

江戸巻齋紹真筆



新編國民地圖



本書の名を新編國民地圖と申すのは日本國民たるものゝ何人にも普通
 に必要な地理上の知識を集めたる地圖であるとの意味であります元
 來は日本地理傳の文國史上の遺蹟に關係ある地理の地圖として明治
 四十二年に東京の東亞協會第一回夏期講習會の會
 場で參照用にしたものであります該會講習學科の程度は國民義務教育
 に従事する教員及び中等程度の男女教育に従事する教員並に中等高等
 の普通教育程度の學生等の廣き範圍に亘りて居りましたかゝる目的の事
 業の常例として實益に兼ねて趣味ある知識を得しむる様にとの希望も
 あることゝて本地圖もなるたけ其目的に適し得る様にと作りたる積り
 であります今右の原稿に多少の修正を施して出版することとなりまし
 たに就いてなるたけ題號を簡單に致したいと考へまして本書の性質か

立案して之を新編國民地圖と命名致しました尙之に對する解説即ち講習會場に於ける講演の本文は同じく多少の修訂を施した上で新編國民地誌と題して不日公刊の運に立ち至る筈であります

二、今かの夏季講習會會場で地圖の首尾に添へて申し述べたる言葉の一端を繰り返へして本書の性質を明にし兼ねてまた改正修補に就いての希望を掲げて置きたいと考へます其要旨は次の様なものであります

イ、今回の講習にさる大家の擔任せられて居た學科が急の差支で中止となり本講演が之れに代ることゝなつた様な次第でありまして夫に使用することの地圖も僅か二ヶ月足らずの日數で是非仕上げねばならぬ手順となつて居たので原稿起草に次ぎて製圖にかり轉寫の原稿をも作り申にて精細密の分は別に銅版にとることにして製版を終へ印刷にかゝつたのは六月半より七月のこと夏季の蒸熱い處へ生憎四十二年は梅雨らしき梅雨が盛んに降りまして色々と随分無理な事業をやり通した様な事でもござります講演者の苦心は別として製圖の全部を擔任せられた東京政教團の靈力に對しては一言すべきものがござります前に述べた様の次第で講演者に於きましては本文原稿の整理にさへ充分の時間がありませぬ事として製圖上の手續としてはただ

豫定の圖目を作つて之を同團員にわたし大體の方針を語り後ほどに校正の一部に關係した計りでもござりましてその細目は一切同團員の靈力によつて出來たと申して宜しいのでかかる事情にもかかはらず願る著作者の希望に適した地圖を希望通りの時間内に仕上げましたのは榮榮とは申し乍ら願る感謝に値することであると考へます

ロ、この講習會の會員中には中等教育に關係のある方々の外に初等教育に關係ある方々が相當に多い様子でしたからその方々の便宜をも計りて特に初等教育に關係ある地理歴史及び讀本中の事實に對して參考となる可き地理をも講述致しました從つて其地名もなるたけ澤山地圖中に載せて置きました尙中等教育の地理特に主として國文國史に關する地理及びその地圖並にこれ等の應用に關する參考書としては拙著近世地理教科書同附圖中等國史教科書中等國史地圖日本史講義日本國史地圖等を御一讀あらんことを希望致します又學友佐藤小吉氏編著にほんれきし地圖はその地形描寫の精確なる點に於て参照の價値あるものなることを吹聴致して置きます

ハ、すべて學問と云ふものは何人かが誠意研究せる結果を集めて大成するものであると伺つて居りますが申にも實地見聞の智識を重んじまする地理に於てはこの點が特に大切の事であると考へます本會會員のうちには現に各地方に在つてこの種の研究を積まれた方又は將さに積まれんとする方々もこ

れある事と存じますがこの地圖に訂正増補すべき箇所を發見し或はまた之に關する材料を所有せらるゝが新に發見せられた時には何卒御報告あらんことを希望致しますこれ即ち共に道を樂むとでも云ふべきもので而も亦容易に成し得らるる一好事であるとかんがへます有志諸君の發成を希望致します

地圖製作上の不便不利は一つや二つに止りません之を印刷することとなりまして何分急ぎに急いで仕上げた事とて一人の職工では間に合はず凸版印刷株式會社に於て數人に分擔さして兎に角期日に仕上げる事と致しましたので元來政教圖開の製圖が數人分擔で校正も精粗あるを免れ得ぬ處へこの始末なので其結果巧拙とまでは申されませぬが隨分各圖で手法に相違が御座りまして中には殊に違ひ目の際立ちて見えるものもある様で御座ります就ては今度多少の修訂は致しましたものの全部改版と云ふ事は到底行はれませんで舊版の特に山地を示す綠色版新舊通じて都會の街路の描き方などには大分手を入るべき點が多いのでありますけれど著者の理想通りにも参りませぬ是等は我國出版事

業の現況に照らして諸君に於て御寛容下されんことを希望するのみであります

三、尙新編の本地圖が舊稿と相違して居る點を學げて見ますると舊第九圖の平城京趾圖及太宰府趾圖を新編の巻頭に廻はしまして其他にも巻頭繪畫として古代日本全景圖を加へました又地圖としては地圖製作並に解釋に關する參考圖面を加へて之を第一面として順次に番號を改め更に京都及平安京附近諸遺蹟圖一面と東海北陸山陽三道の一部を併せ描きたるもの一面とを加へました是は増訂と云ふよりは寧ろ極々最初の計畫の一部を復活したと云ふ方が適當であります北域南域なる北海道樺太琉球臺灣等は國文國史上の遺蹟として觀るべきものが稀でありますから最初の計畫に是等の地方の事は考へて居りませんでしたが今度の様に一篇の成書として出版する以上は韓國地方南滿洲一帶地方をも加へて是非再版の時には増加致したい考へでありますその計畫も略定まつて居ります尙今回の分には附録として第十八面に葉書地圖六葉を

集めて寫さして置きました其内四葉は講習當時政教圖開の寄贈でありまして就中沼津附近圖は本篇中のある地圖の缺點を補はん爲めの臨時急造であつたのが却つてその本圖より不出來であつたなどの紀念附きであります今は然し乍ら是等のものも不充分ながら相當の訂正を加へ外に富士附近圖と參遠國境附近圖を添へまして各種の圖例を寄せ集めたる一面となりました

四、前申した通り新に口繪として古代日本全景圖と稱するものを掲げました是は徳川時代に出來たるものを縮寫したので欄外の繪は新に神代紀の古意を描き添へたのでありますこの古圖は單に國文國史上の地理との聯想以外に本邦地圖製作の沿革を知る參考にもなるものであります其他卷末の文章中に一頁大の石版圖畫九葉寫眞版圖畫五葉を挿入してあります其題名は目次にある通りで御座ります是等は口繪と共に地圖製作の沿革を例示する用を爲し得るものもありますしその他又地圖の製作及び印刷術の各種の方式を例示し兼ねて又一般國史地圖の原則を

説明する例證圖となり得るものもあります之に就きては卷頭卷末の文章と御參照あらんことを希望致します而して是等の繪畫は小林印刷所に托して製版致しました其着彩の様子などが講習會用の舊稿と相違して居るのはこの爲めであります。

五、卷頭の文章なる序説は新に起稿したものでありまして卷末附録の各章は或は講演の一部の筆記より或は舊作の草稿を訂正したるものより色々取集めて出來たものであることはその各章首又は章末に御断はりをしてある通りで御座ります

六、今度本書を公刊するに就きて講習會當時を回顧して好い經驗を得たと覺りました様な次第で地圖製作校正の困難なるにつけても畿内附近伊豆相模附近京都近傍鎌倉近傍並山近傍など普通通知れ切つた場所で何人に一任しても宜しいと考へて居つた處ほど不結果に終る様な事になつて實に平地に躓くと云ふ古金言はこの類の事業の爲に出來たのでないかと感じた様な次第であります就ては本書が漸次修訂再版の運に達し

て益々改良進歩の實を擧げ得んことを希望する次第であります尙本書各圖面の題名と目次の題名と一致しないものが二つ三つありますが是等は後に定めたる目次の方によることと致したのであります再版にはこの通り改める積りであります又編纂の都合上各圖面の大小諸圖の包括する局部が同一地方で重複して居る場合がありますが當分の時にはなるだけ縮尺の分數の少ない圖によりて御覽あるが當然の事であります即ち同じ畿内とか京都附近とかでも二百萬分一の地圖よりは百萬分一の見方が宜しく十五萬分一よりは五萬分一の見方が宜しいのでありますその他に準じて知るべしです又事柄によりて参考すべき地圖に自づから適不適がありましたして航路のことは無論海圖によるが宜しいので陸路のことも同じ百萬分一の畿内近傍の地圖でも何よりも先づ東海道一部とか山陽道一部とか題する主として道路のために製作した地圖による方が宜しいのは云ふまでもない事であります尙十四十五十六の三圖を御比較になればこの理由が適切に分ります

七、すべて地圖と申すものは技術上極めて精細に殆んど理想通りの出來榮のあるものでも誤差と云ふものは必ず伴ふものでそれが地圖の縮尺の分數に應じて又は地圖の目的性質に應じて夫々許容さるゝ様になつて居るものであることは卷末の文章中にも一寸御断はりしてありますこれは地圖使用上豫め御注意ありたき事でありますが本地圖の如きは製圖にも印刷にも色々困難が伴ひ製版の多數も銅刻のものは少ないのでありますからしてこれ等につきては充分の許容を豫め希望する次第であります特に各色版の重ね刷の工合にも誤差が起り易いのでこれまた地圖使用に際して前以て御注意ある様に希望致します

八、本地圖を講習會場で用ゐた時が即ち本地圖の生れた時で今回の公刊が學齡で以て就學する期に達したものとたとへられます其間東亞協會の幹部諸君を初めとし會員諸君から種々誘掖指導の厚情を蒙りましたのは感謝に餘りある事でありまして中にも製圖製版印刷等の交渉其他に關して弘道館員岸田繁次郎氏植木勇氏の盡力の甚だ多かつた事は實に

尋常普通以上で著者は好く知つて居るのであります著者の爲めには著書は子供の様なものであります何人の子供にも病氣災難等の油断をせずとも色々ふりかゝつて來たがるものである世の人の子の親たり師たる心を持たるゝ諸君が本書の爲めに一掬愛憐の情を垂れて其改良進歩を助け給ふならんことは著者等の私に安んじて期するところであり
ます

明治四十二年十二月

著者識

新編國民地圖

目次

卷頭圖書 日本全景古圖……………

同 (73)平城京趾圖(74)太宰府趾圖……………

序 說 島國—島國根性—海洋主義……………

第一面 (1—3)圖目番號Ⅱ(1)中域(2)關東(3)近畿(4—6)圖式
(記號縮尺Ⅱ大洗)……………

第二面 (7—16)圖例地圖と實際Ⅱ(7—10)東京芝公園主部(現
圖三式Ⅱ(11)曲線式(12)暈滲式(13)暈渲式(別式諸圖Ⅱ(14)
暈渲別式—箱根附近(15)暈渲別式—伊豆相模(16)曲線
暈渲別式—關東一部)……………

第三面 (17—20)圖例(陸海各種圖Ⅱ(17)出雲(18)尾道附近(19)大津
(20)長崎)……………

第四面 (21-23)區劃II(21)全域(22)中域(23)近畿24-26(地勢II(24)

全域(25)中域(26)近畿

第五面 (27)東部地方(關東甲駿信越諸國(28)川中島附近(29)駿河沿岸

第六面 (30)關東一部-其一(31)韭山附近(32)小田原(33)鎌倉

第七面 (34)關東一部-其二(35)東京

第八面 (36)東北部地方(奥羽諸國(37)平泉膽澤附近(38)仙臺松島附近(39)福島若松附近

第九面 (40)中部地方(近畿北國海道諸國(41)宇治山田附近(42)桶狭間鳴海附近(43)江濃越國境附近

第十面 (44)近畿要部(45)和歌山附近(46)畝傍飛鳥三輪附近(47)吉野山上

第十一面 (48)東海道一部(49)北陸道一部(50)山陽道一部

嵯峨嵐山

第十三面 (56)京都附近

第十四面 (57)大坂(58)大坂及堺附近(59)神戸附近

第十五面 (60)西部地方(中國四國(61)高松屋島附近(62)岡山附近(63)來島海峡(64)廣島灣

第十六面 (65)瀬戸内海要部(66)九州北岸(67)下關海峡

第十七面 (68)西南部地方(九州二島(69)太宰府博多附近(70)福岡(71)熊本(72)長崎灣

第十八面 (75-80)附錄(葉書地圖II(75)小田原(76)箱根(77)沼津附近

(78)富士山(79)富士山頂(80)參道國境附近

附 錄

(一)地理學科中の地圖學

(二)本邦陸海圖製作の現状

(三)本邦地誌及び地圖編成事業の沿革略

(四)高低標示に特殊の方式を採用せる私見

(五)本邦の歴史地圖を讀む方八則……………
各種圖書(半截形)

- 圖集の題書 春日神社々頭……………
- 附録の題書 三種圖式……………
- 挿入圖書第一 樺太圖 航海用圖 東海航程圖……………
- 同第二 額安寺田圖 尾張富田庄圖 開港前横濱
圖……………
- 同第三 蝦夷島一部圖 後三年役古蹟圖 播磨大
名領地圖……………
- 同第四 平泉衣川附近圖 飛鳥藤原京附近圖……………
- 同第五 新羅古都趾圖 武藏野一帶天沼附近及府
中附近圖……………
- 同第六 小夜中山附近圖 三津濱附近圖 讃岐國
一部圖 長門國小野村圖……………

- 同第七 備中國一部圖 高松附近及城趾圖 棚倉
附近圖……………
- 同第八 武藏國一部圖 下總國一部 武總國境附
近圖……………
- 挿入寫眞版畫甲 芝公園及日比谷公園……………
- 同乙 右同……………
- 同丙 海圖符號一斑……………
- 同丁 駒込追分古畫……………
- 同戊 紀念寫眞……………

* 印は分冊の下に收む

谷を流るゝ水はまた断へず水蝕作用を逞ふし其結果段丘を作るに至ること
地文學に於て脱くところの如し斯の如くにして谷を流るゝ水に沿ふて連亘
せる段丘と所々に水に近く蟠まれる丘陵とは人間好箇の住所をその陵腹正
肩に作るを得しめ村落從て起り更に發達して都會となるもあり谷はまた山
と接してその美觀を併せ有するを以て往々宗教上の靈地となり又四民觀樂
の場として文學史上の名蹟となることあり谷は時として交通の要路をなせ
どもしかも之を通過するの容易ならざるは素より平野を通過するの比にあ
らざるを以て戦時には之を拒守して頗るその住民の安寧を保護し得べしス
ウイス人がオウストリア帝に對して獨立を完うし得たるは主としてかくの
如き地勢の之を助けたるに云ふ我が國に於ても築城術の發達未だ完
からざる時代に於ては武家は往々谷を利用して有力なる根據地を作り得た
り攝津源氏の多田庄船島木曾氏の木曾谷伊勢國司北畠氏の多氣御所の所在
地の如きは其著るしき例なり支那人は斯の如き地勢を四塞天府と稱す現代
に於ては谷を流るゝ水の急速力を利用して水力電氣事業を起し從來山間僻
陬として知られし處に意外の工業的都市を現出することありかくの如き水
力を有する國は將來工業によりてその富力を増加するを得べくスウイス
ウエデンの如き既に着々と其効果を收めつゝあり我日本の地勢も亦こ
の天與の富源を有するを以て將來に於て工業を以て國本の一部となすを得べし

新編國民地圖

文學博士 原 秀四郎 著



かき(序論)

島國根性—海洋主義

稍ともすると一部の人のよく申したがる言葉であるが吾日本國は島國であるからこの島國に生長したこととて兎角に吾國民は局量(こくりょう)が狭くて爲る事が萬事規模(ばんじりぼ)が小さい深遠(しんえん)な思想(しゆきう)を起し得ないなどと評判(へいはん)を立てて居る然し乍(さ)ら之を日本人自身の口から云ふとは誠に自(みづか)ら侮(あは)れること甚(こ)しいものであつて強(こ)いて云ふならばそんな卑屈(ひくつ)な言葉を出(いだ)すそのこと自身が余程(ほど)妙な局量(こくりょう)から出たものである

先づ第一に島國だから規模が小さい局量が狭いと云ふ原因結果の推理がさう容易く斷言が出来るものであらうか夫からが問題である成程我國にはアジア大陸にある様な大山脈はないされどもアジアの大陸に大山脈があること云ふことはアジア大陸の何處にも大山脈があると云ふ事ではない寧ろ文明の發達し生長した立派の事蹟を有する國の山は我日本の山と大した相違はないコンロン山やヒマラヤ山やアルタイ山や乃至アルプス山や歴史偉大な文明を創始した國民の住地ではないそれならば吾國に大河がないと云ふのなるほど我國にはヨーロッパ大陸の就中ロシアにあるドン河の様な大河はないけれどもヨーロッパの文明の本尊であるギリシアと近世になつてやつと其門を覗き込んで來て堂までとどき兼ねて居るロシアとを誰が同一に見るものがあらうかギリシアの地勢を考へて見るが好い而もその文明の規模を狭少だと云ふものがあらうか

夫ならば吾國に大平野がないと云ふのなるほど我國にはアメリカ大陸

にあるやうな大平野はないけれども大平野そのもの丈では人類の發達に何等の寄與を爲し得るものでない事はアメリカのプレーリーが開闢以來野犬と野牛の繁殖場であつてアメリカインディアンはたゞ之を獵場として漂泊して居たに過ぎないのを見てもわかる今日この大平野の開墾事業に相當な大機械を作つてどしどしと收穫を得て居るアメリカ合衆國民の多數はイギリス人の子孫であつてそのイギリス人は無論島國人であるのである

さらば直接の影響を感ずる方は先づ別として高山大澤が自然にその崇高雄偉の姿で以て間接に住民の性情に感化を及ぼすその材料たる自然の現象が吾國に缺けて居ると云ふのが夫ならば心配することはない吾國人はなるほど一寸ヒマラヤ山やドン河やプレーリー平原やの様なのを目にすることは出來ぬけれども之に代はるものがないでもない詞人が洋々として八州をめぐると云つた大海の水取りも直さず日本群島を圍んで居る日本海や黄海や大平洋やが夫であるこれが大山や大河や大平原やに代つ

て島國人たる日本人に偉大の威化を與へ得る崇高雄偉な自然現象なのである

言ふまでもなく吾日本國の各種の自然現象は各種の威化を吾民族に與へることか出来るその中で雄大と云ふ威化力が缺けて居ると思ふたのは海を知らぬからである海は吾民族の嚴師友であつた吾日本民族が民族として偉大の事蹟を遺す場合には海の氣が人の氣を引立て、さうなつたのかと思はれる場合が多い

先づ第一に我國史の第一ページを開けて見るがよいそのページには天地開闢の神話が掲げてあつて下の様に言つて居る

天地開闢の初めに洲壤浮び漂ひてたとへば魚の水に浮べるが如しその時に天地の中に恰も葦の牙の生ひ出づる如く一つの物出でたり是即ち國常立尊なり

人間の祖先である國常立尊は海から來てその偉大の力で以てこの山川草木を造りて永遠に之を榮えさする基礎をおいたのだと考へてゐるその思

想を狭少と云はれうか

されども是は人間の歴史らしくないと云ふならば國祖伊弉諾尊伊弉册尊の事蹟を擧げて見るがよいこの二神は天の浮橋恐らくは船のことと思はれるその浮橋から天瓊矛を持ちて青海原を探ると其矛先の滴りから瓊敷盧島が出來て之を基として淡路島より初めだんだんに大八州を経營したるのみならずその御子の天照太神には高天原を次子素盞鳴尊には青海原を知らしめたとある後世の史學者はこれは天と海との廣大なるによせて吾國威國光が上下四方に廣がる程に盛になれとの意を寓したのだと解釋して居る解釋は何とあらうとも本文を讀んだ丈でも日本民族は世界何處にもある空の天と目前自國にある海との二つからその偉大の精神を養成し得たのだと少なくともある時代の有識者が感得して之で國民の性情を陶冶せうとした事は明らかに見られるのである千年後の今日吾々がその意味をすら了解できぬ様では洵にこまるでないか

餘り昔しのこと許り云はずとも目前にも例はある僅か五六年前のことで

ある國は國運を賭し人は命がけの日露戦争のその事蹟につきて考へて見るがよい誰も知つて居る通りこの戦争は三十七年二月八日の夜旅順口の港外に敵艦襲撃の活躍を手始めとしてその後も本隊は敵とイの字に對戦し驅逐艇は敵に迫りて舷々相摩の奮闘を試みたかの勇ましき黄海諸處の海戦を中幕に三十八年五月二十七日の天候清明なれども風強く波高き曉方より二日に跨りて三十餘隻の大艦隊を逆へ撃ちて撃沈し捕獲し降服せしめ自盡せしめたその日本海の會戦で以て幕を終ることゝなつたそうして其結果我は所謂一等國の列につきて國らしき國として世界の舞臺に出ることが出来たのである

日本は島國である日本人は島國人に相違ない島國人たる日本人が島國根性を持ちて居るに不思議はない棄てやうとて棄てられるものでない寧ろ吾々は島國根性を棄てゝはならぬのであるたゞ好い方に之を用ゆる様に注意すれば好いのである然し島國根性と云ふ言葉に語癖があると云ふ言葉丈の争ひならばその代りに海洋主義と云ふ言葉を新作したらば如何で

あらうジョンブルは大に島國根性を發揮して世界の海洋を吾門前の堀同様に心得て居るイヤ同様に使用して居る吾々は之を學ばねばならぬそれが即ち祖先傳來の海洋主義であるヤンキーの如き寧ろ大陸國民と云ふべきものすら海上權を云々して騒いで居るではないかカイゼルの政府さへヤキモキと海軍擴張だと騒ぎ廻はつて居るのを見るがよい

島國だから島國根性だからと自から侮り自から屈するのは自國の地理を充分に知らぬからである自國の歴史が本當に分つて居らぬからである國民たるもの如何で自國の歴史と地理とを知らずに過されやうぞされどまた徒らに自から高ぶり自から恃んで許りしては居られぬ世界の廣き中には英人も居る米人も居る露人も居る獨人も居る佛人も居る清人も居るその他にも色々の人が居ることを忘れてはならぬ彼等は如何なる點から考へても吾國人より下にあるものではない我は勉めに勉め勵みに勵みても彼等と對等の偉業を擧げることば骨である世界の歴史を讀むかよい世界の地理を知るがよいそうして又知らねばならぬことがある現在の地理現

象特に政治地理の現象は永世不動のものではない將來のことは容易に知れずとしても過去に於て種々の變化をして居る今日の強國も畏れて許り居るには當らぬ勉めて止まねば吾も之に達し得られない事もないのである今日の弱國も侮り許りしては居られぬその弱國となつた過去は吾に懐みの材料を示すであらうし其再興し得る將來の希望に就きては吾は好き鑑を見出すこともある

歴史の研究が地理の研究と關係する如く外國の地理も自國の地理も互に關係がある世界の歴史を知り世界の地理を知るとは眞に自國の歴史を知り眞に自國の地理を知る所以である

日本群島の住民たる日本人に其島國根性の劣悪な部分を棄てさし其海洋主義の優良なる部分を自覺せしめて自から侮らず又自から高ぶらずよくその宜しき程合で以て列國の間に伍して行くことの出来るやうにするのは洵に地理と歴史との智識が必要である地理と歴史と相關係して起りたる事實に關する智識が大切であると考へる

これを以て新編國民地圖の序論とする

本篇島國根性云々の一節の要旨は嘗て東京高等師範學校學生の組織せる地理歴史學會に於て講演せることあり

開闢之初洲墟浮漂磬猶游魚浮水上也于時天地之中生一物
狀如茶牙便化爲神就國常立尊 (日本書紀壹節)

「敵艦隊二〇三地點に見ゆ」敵は東水道を通過するものゝ如し」

(哨艦信濃丸電信)

「皇國の興廢この一戦に在り各員一層奮勵努力せよ」

(旗艦三笠信號)

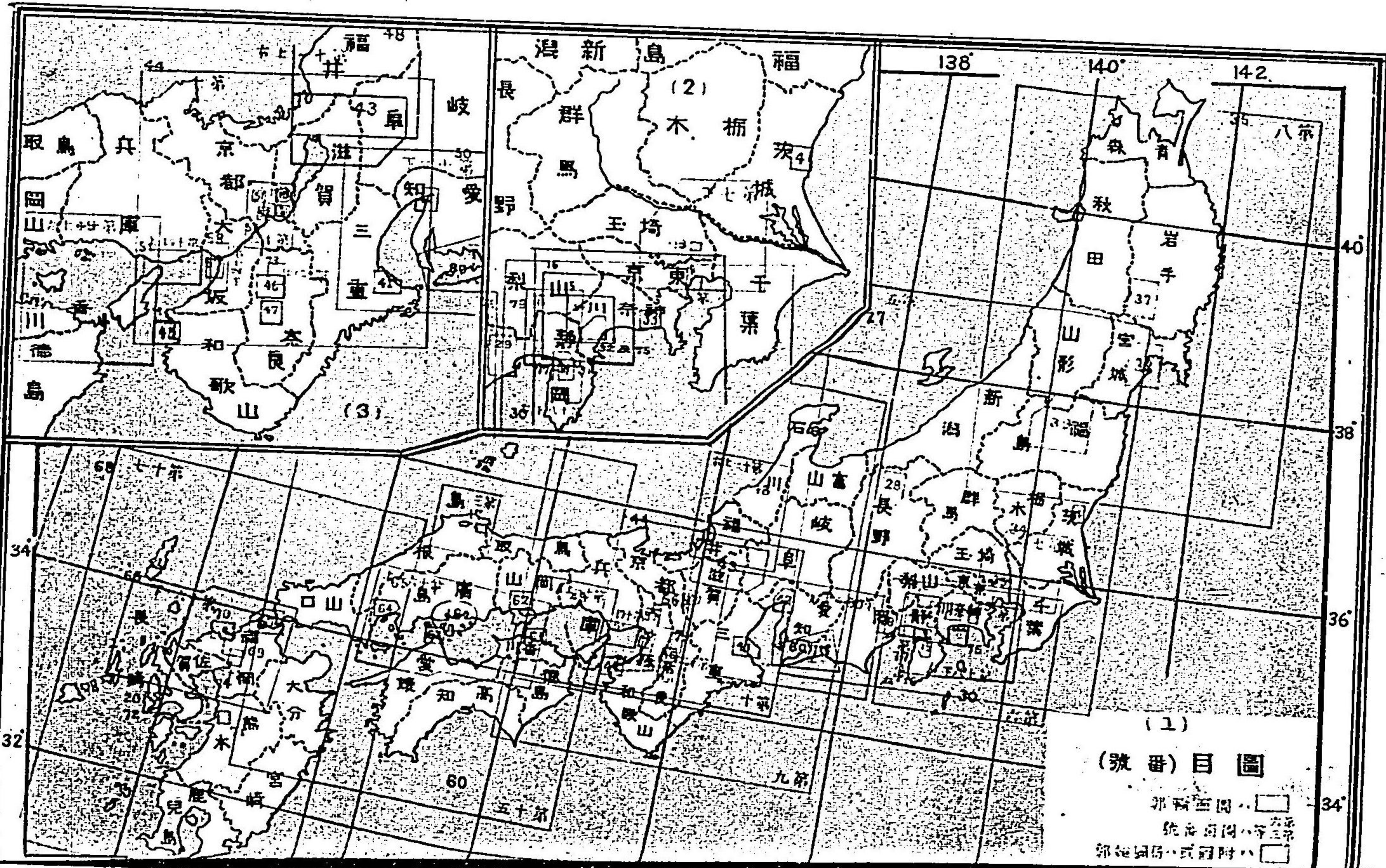
「全軍北航して明朝蔚陵島に集合すべし」

(通報艦龍田傳令)

「敵は戦艦四隻巡洋艦二隻より成り今北東に向針す」(通報艦八重山電信)

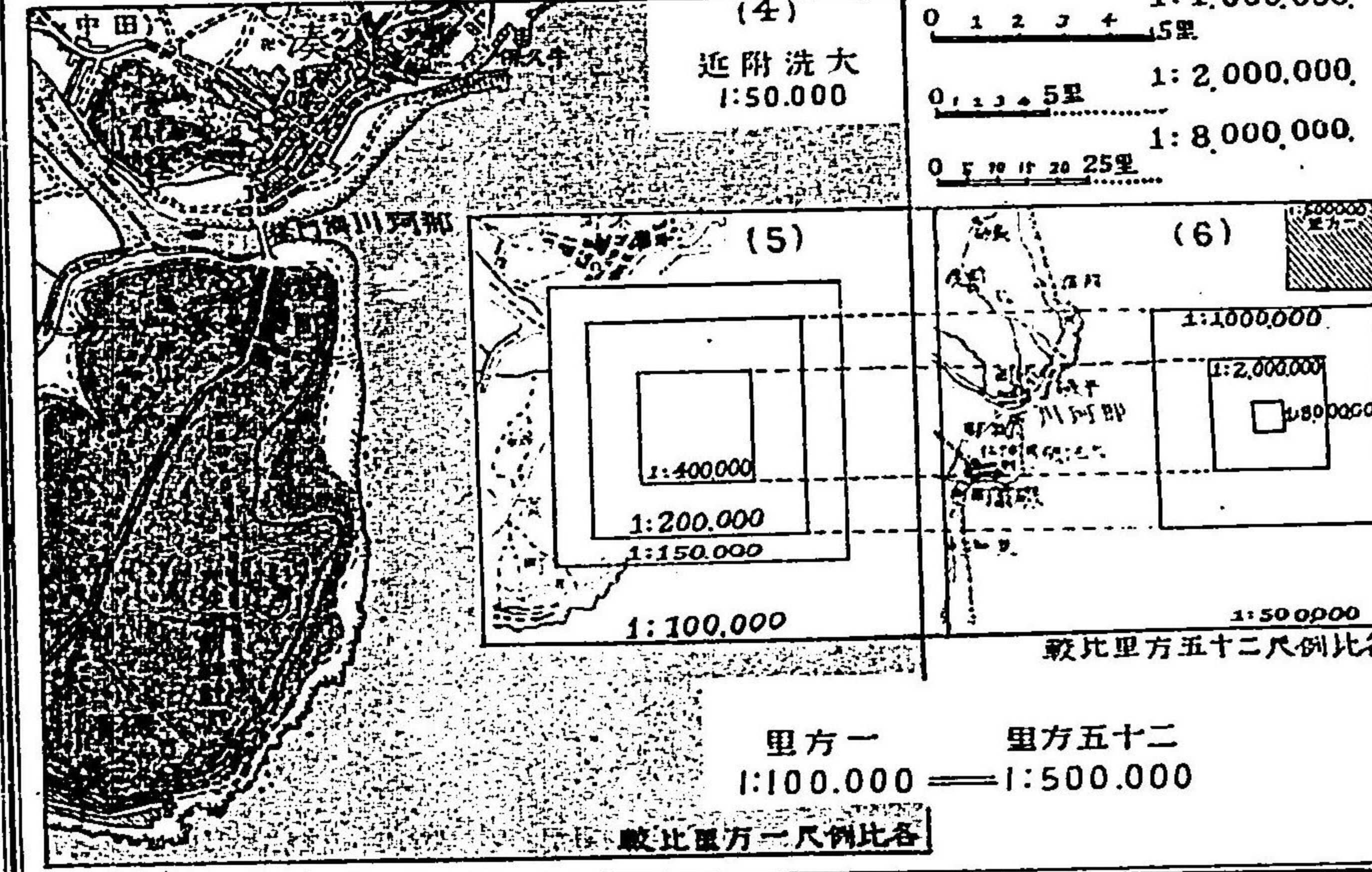
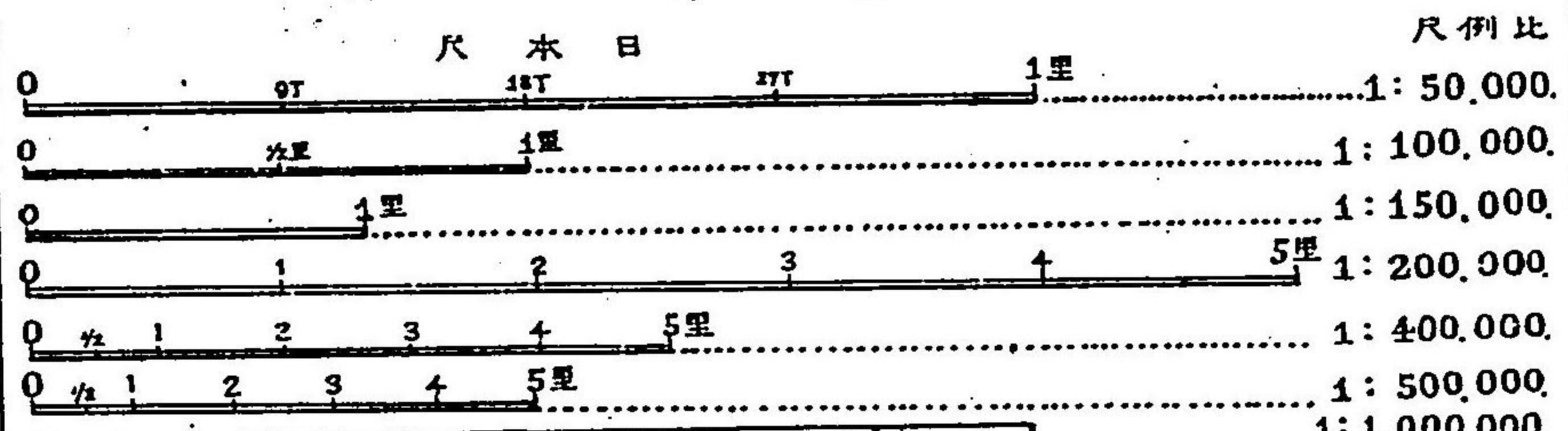
「敵艦降服せり」

(旗艦出雲信號)



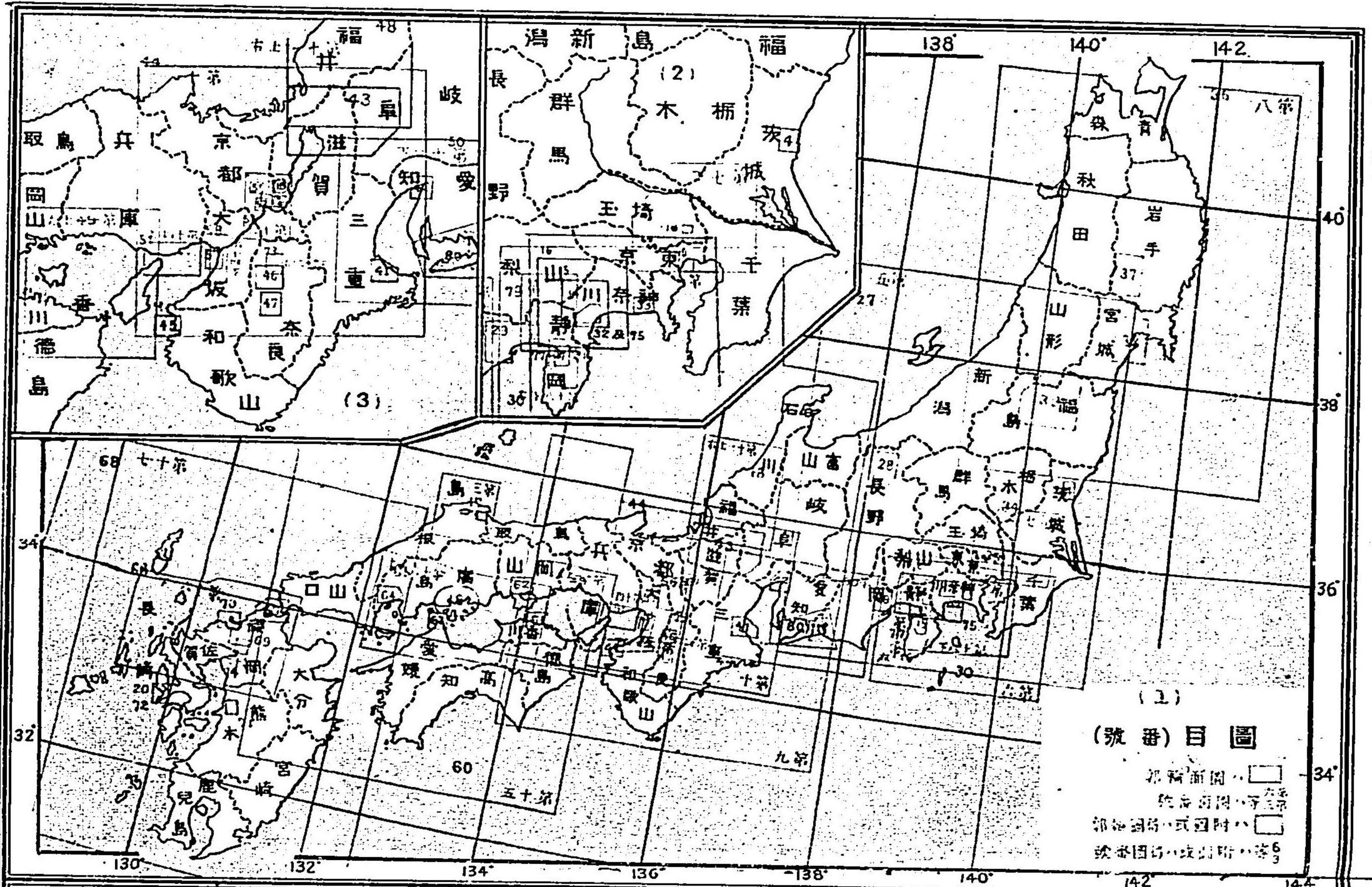
(1)
(號番)目圖
 那爾西圖...
 統兵圖...
 郭城圖...或圖附...

(尺縮)式圖

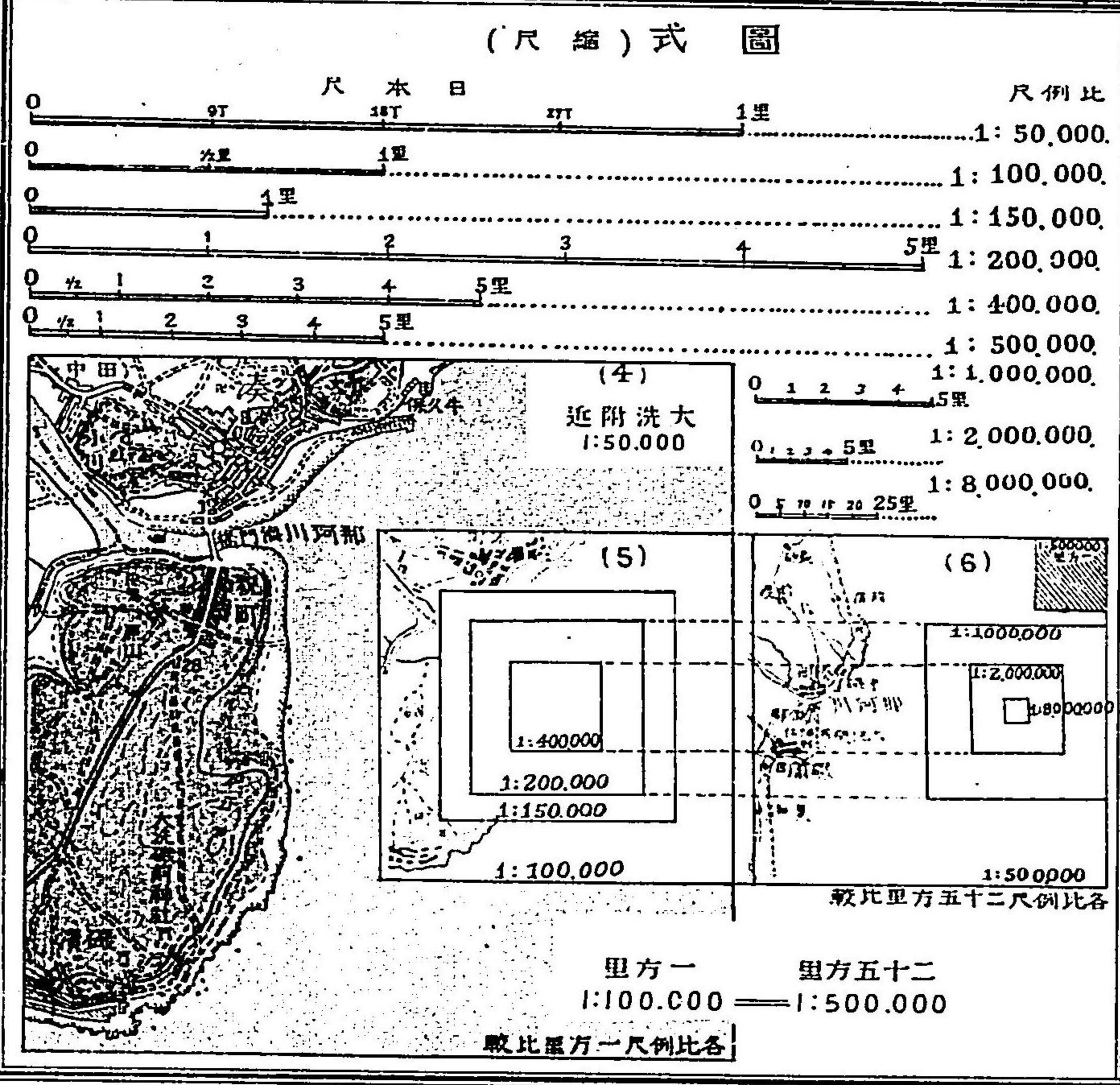


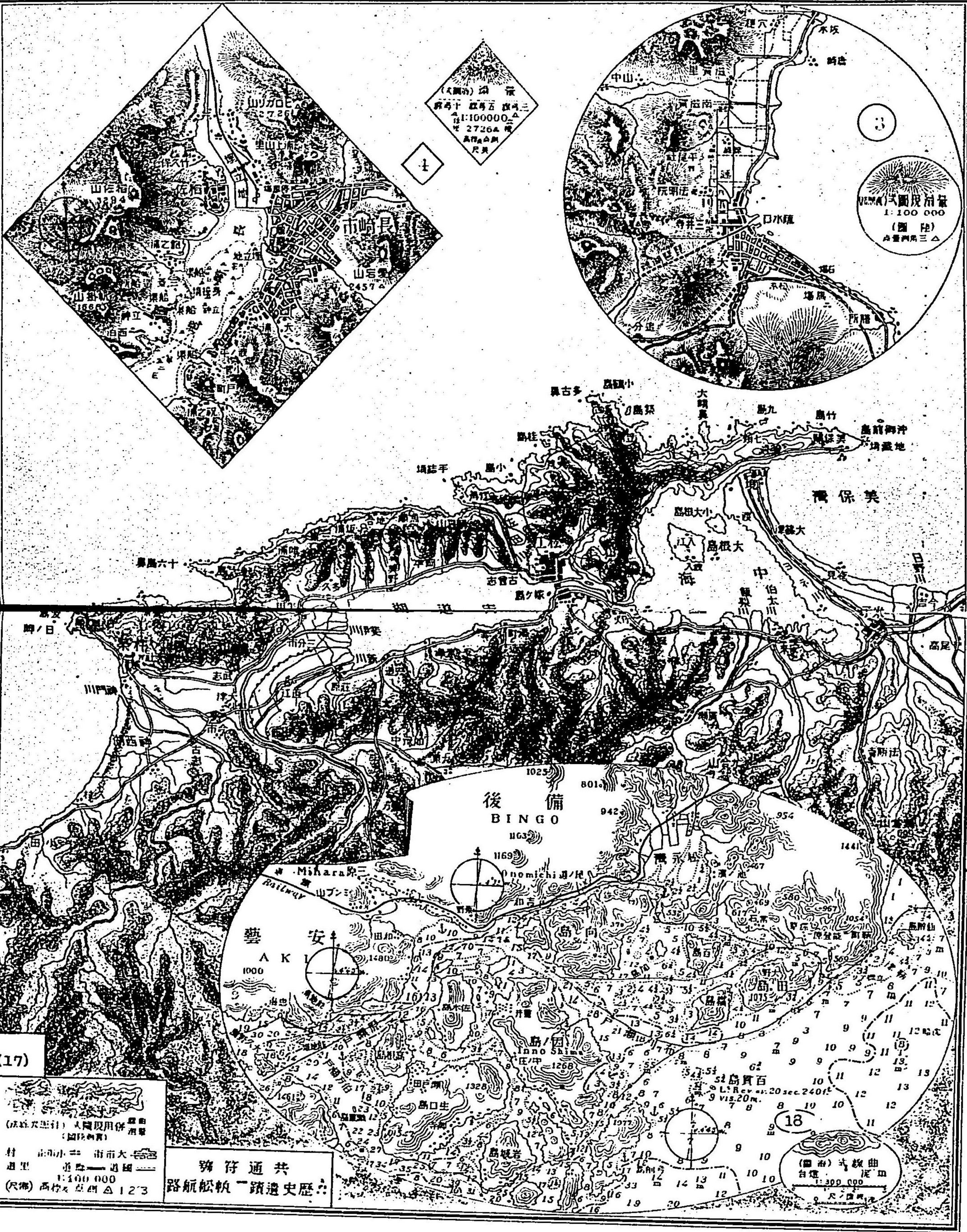
(號記)式圖

- 號記一分万百二及一分万百
- 社神界縣府國 (在所屬縣府) 市
 - 關佛社界縣 (在市) 市
 - 務名界國 (在所屬縣) 町
 - 場殿古道鐵 (上以口万一) 町
 - 山鎮火路道要主 (下以口万一) 町
 - 泊港山道鐵成未 村
 - 泉温地山 地登陸
 - 頂山
- 號記一分万十二至乃一分万十五
- 陵山爪道國 地街市大
 - 碑墓上道里縣 町キ多口人
 - 臺燈在場停道鐵 町キ少口人
 - 石岩 道軌裡各 村
- 號記一分万五十至乃一分万十
- 校字文道陸 街市
 - 極下地河運 町 (上以口一人)
 - 梁橋 落村
 - 道縣國
- 號記一分万五
- 里 (路堤) 橋車停 屋承檢速
 - 道 (路堤) 道 屋家立獨
 - 徑外 堤 地山
 - 巨測角三 A (式線曲平水)
- 號記圖海
- 臺燈 (和)路軌 線島五
 - 深水 街市 線島十
 - 岸檢無確 落村 線島十二
 - 地山 線島百
 - 洲沙及濱沙



(號番)目圖
 邦國地圖...
 邦省地圖...
 邦縣地圖...
 邦市地圖...
 邦町地圖...
 邦村地圖...





(大圖) 縮尺
 縦横寸 縦五 横三
 全 1:100000
 片 27264
 高 尺 尺

(大圖) 縮尺
 1:100 000
 (圖 陸)
 片 高 尺 尺

後備
 BINGO
 1163
 1025
 801
 942
 954
 1441

藝安
 AKI
 1000

Mishara 山ノ下
 Onomichi 尾ノ尾
 Inno Shim 井ノ島

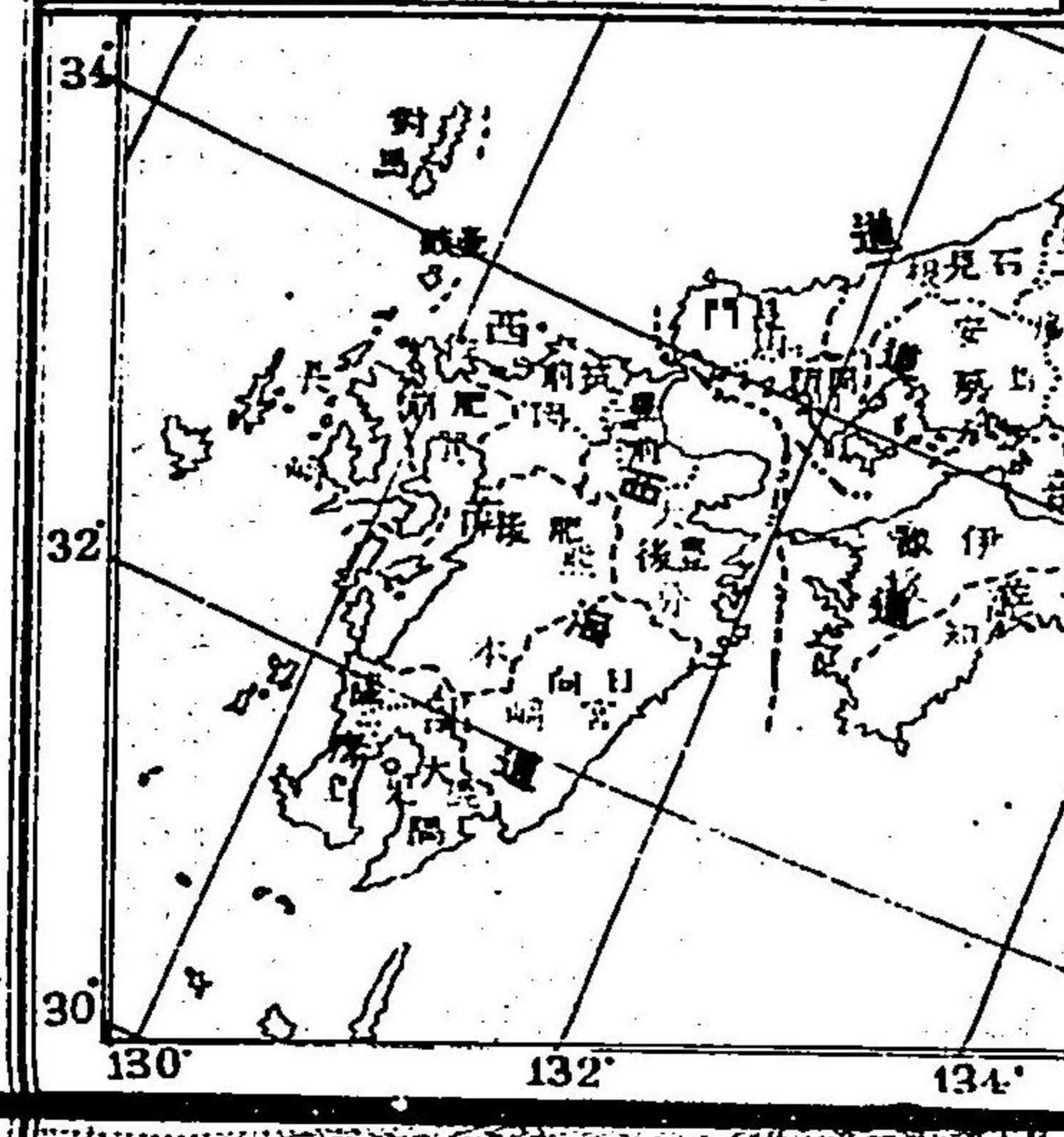
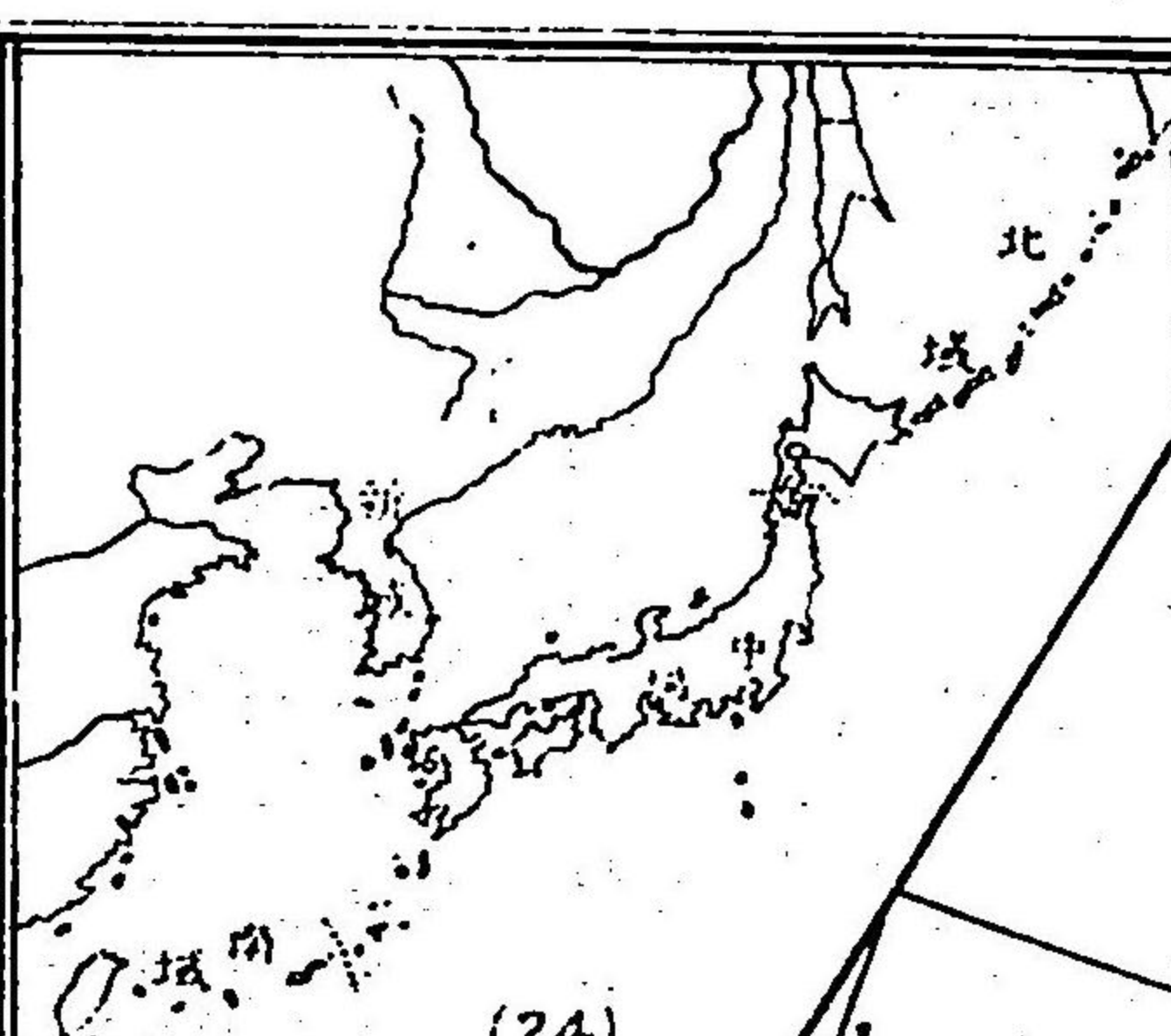
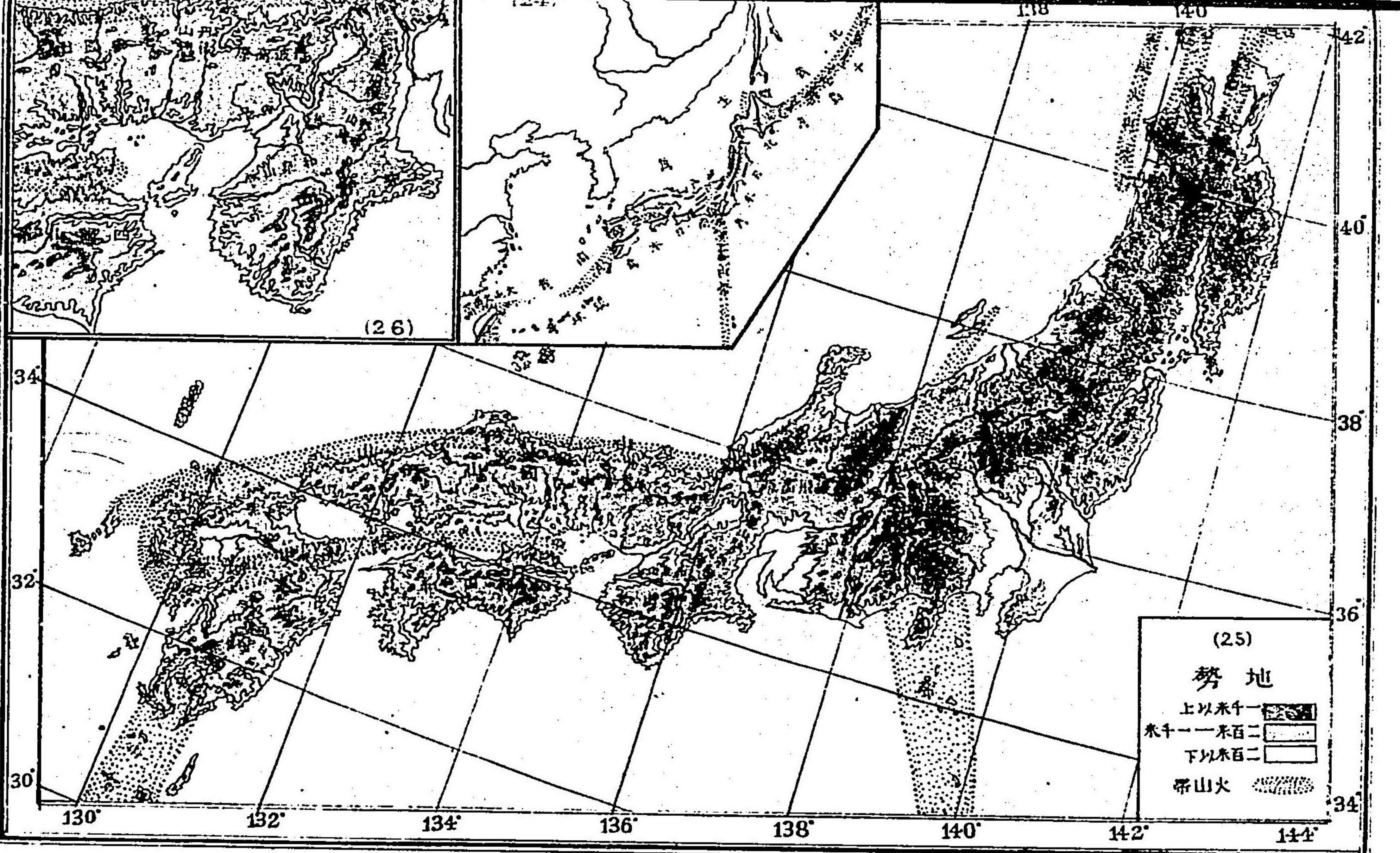
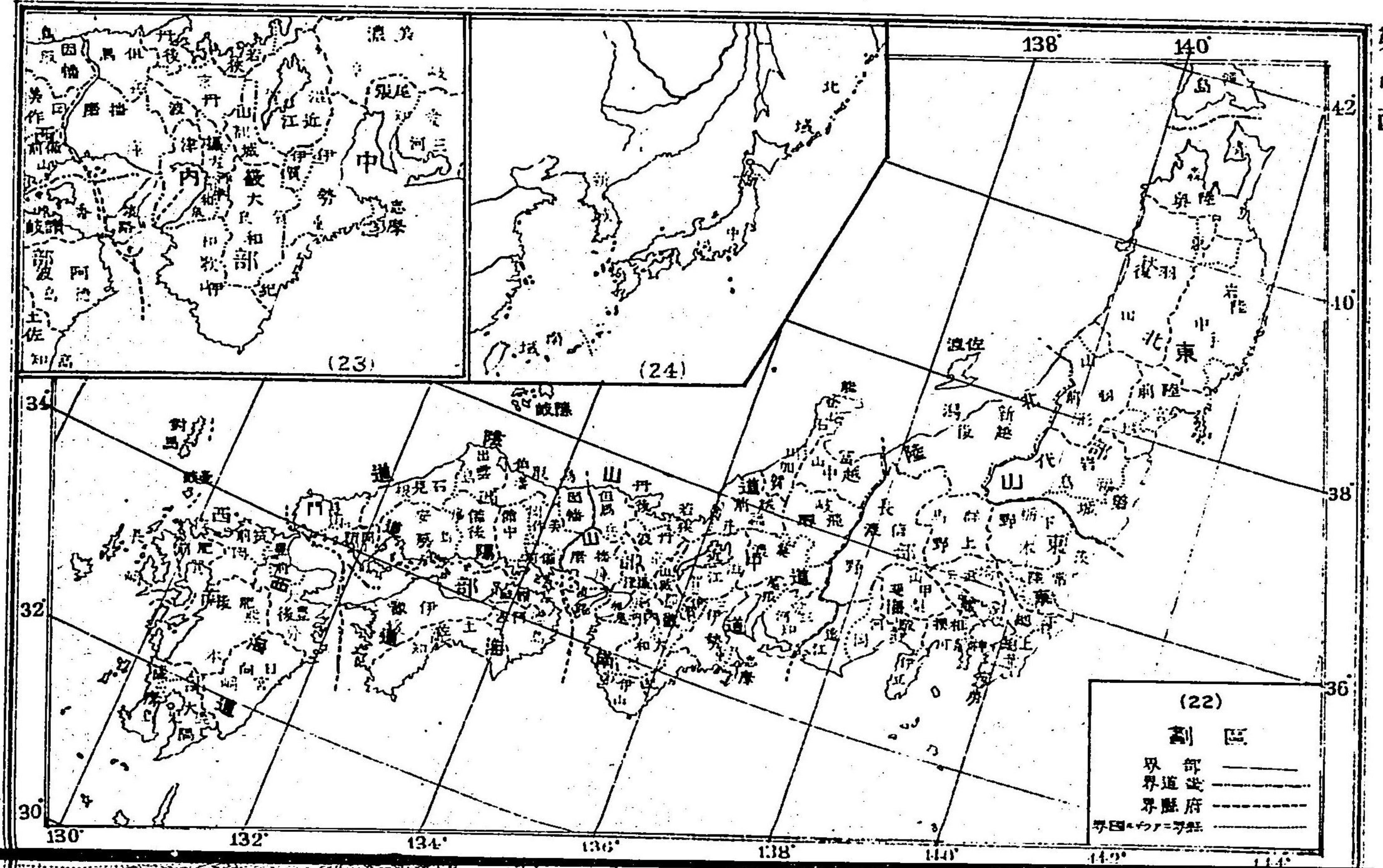
52 島百
 L: Rev. 20 sec 240ft
 9 vis. 20m.

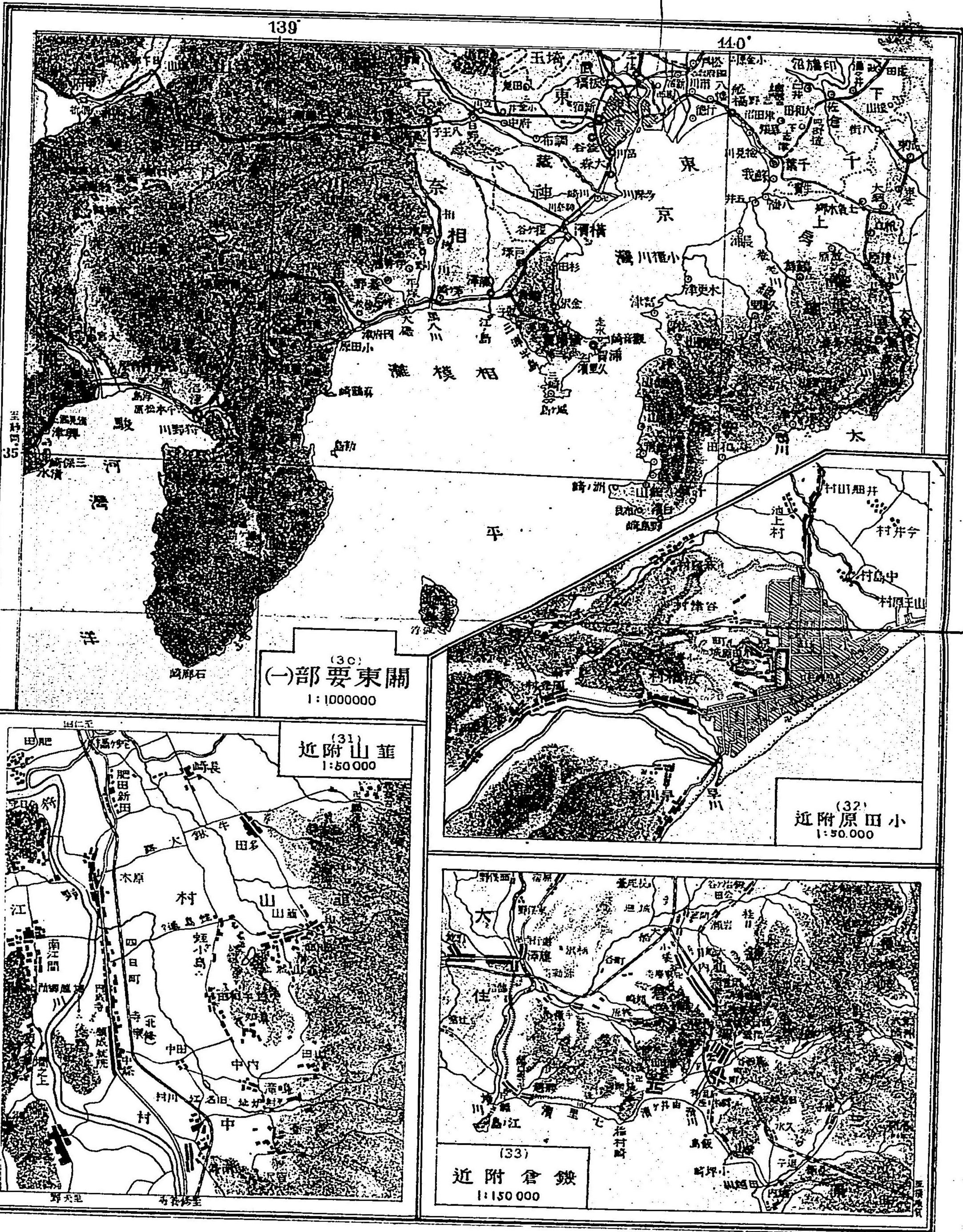
(圖 海) 式 波 曲
 台 燈
 1:300 000

(17)

(大圖) 縮尺
 1:100 000
 (尺 海) 高 尺 尺

符 通 共
 路 航 航 軌 一 蹟 遺 史 歷





139

14.0°

(30) 關東要部
1:1000000

(31) 華山附近
1:50000

(32) 小田原附近
1:50000

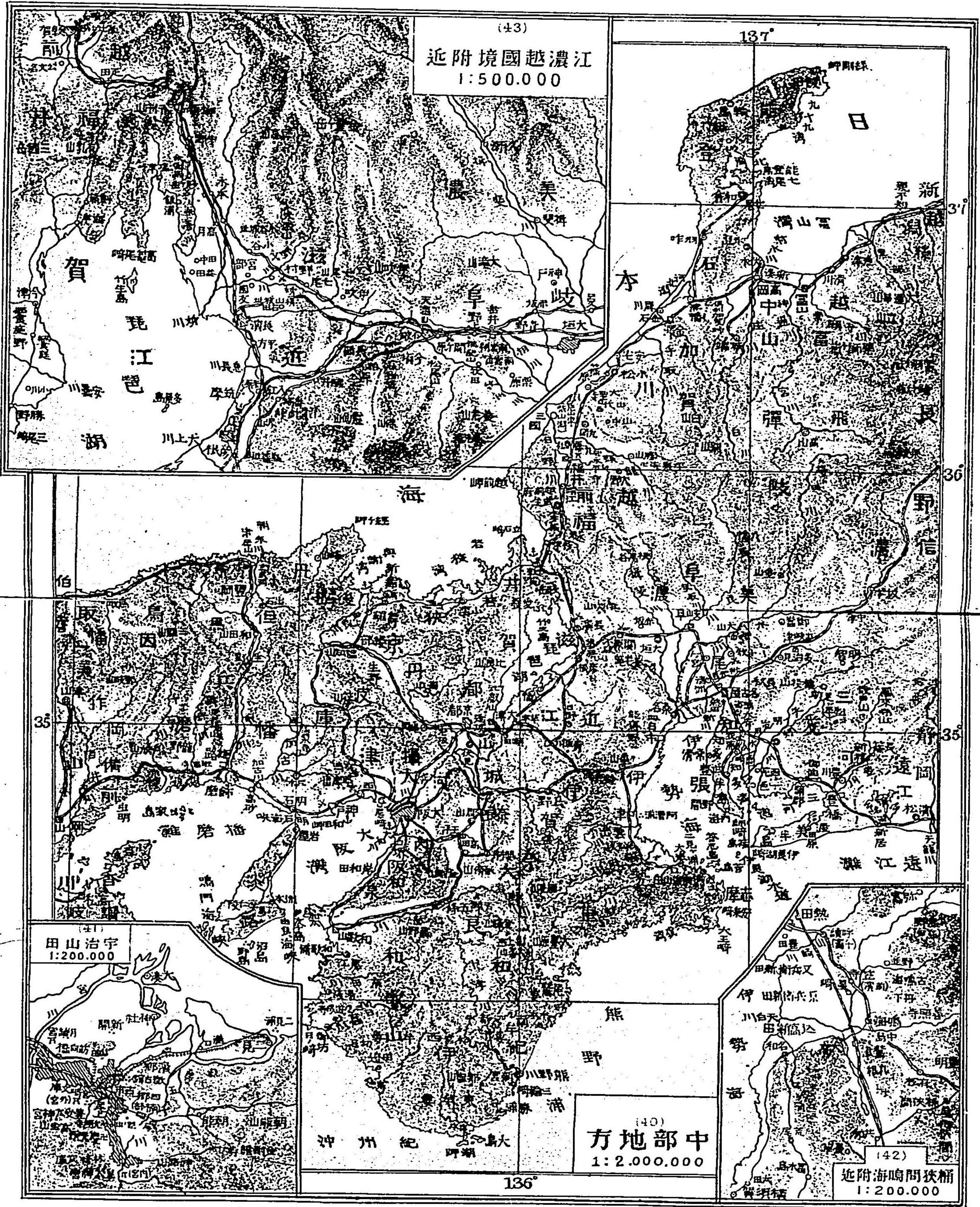
(33) 鎌倉附近
1:150000

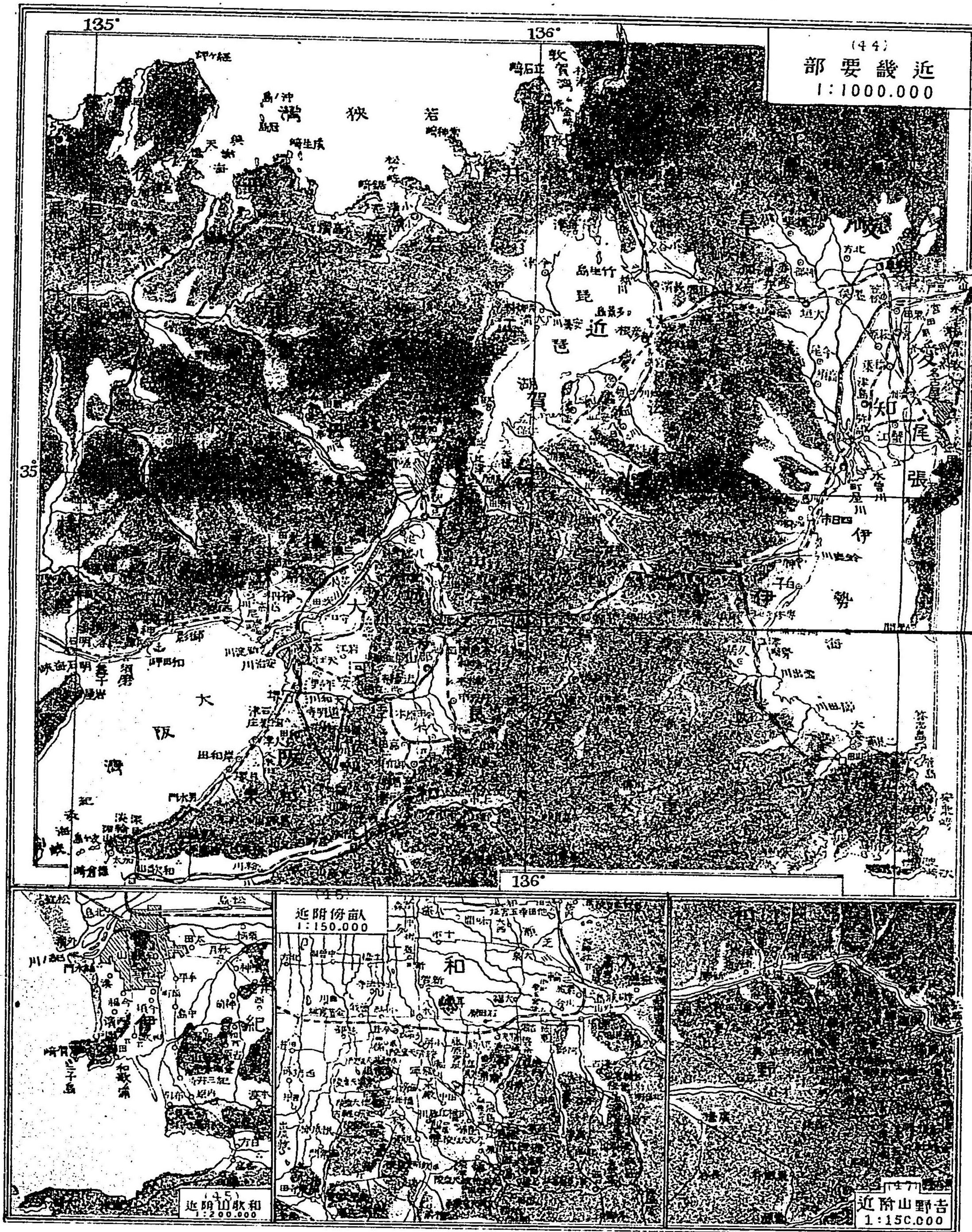


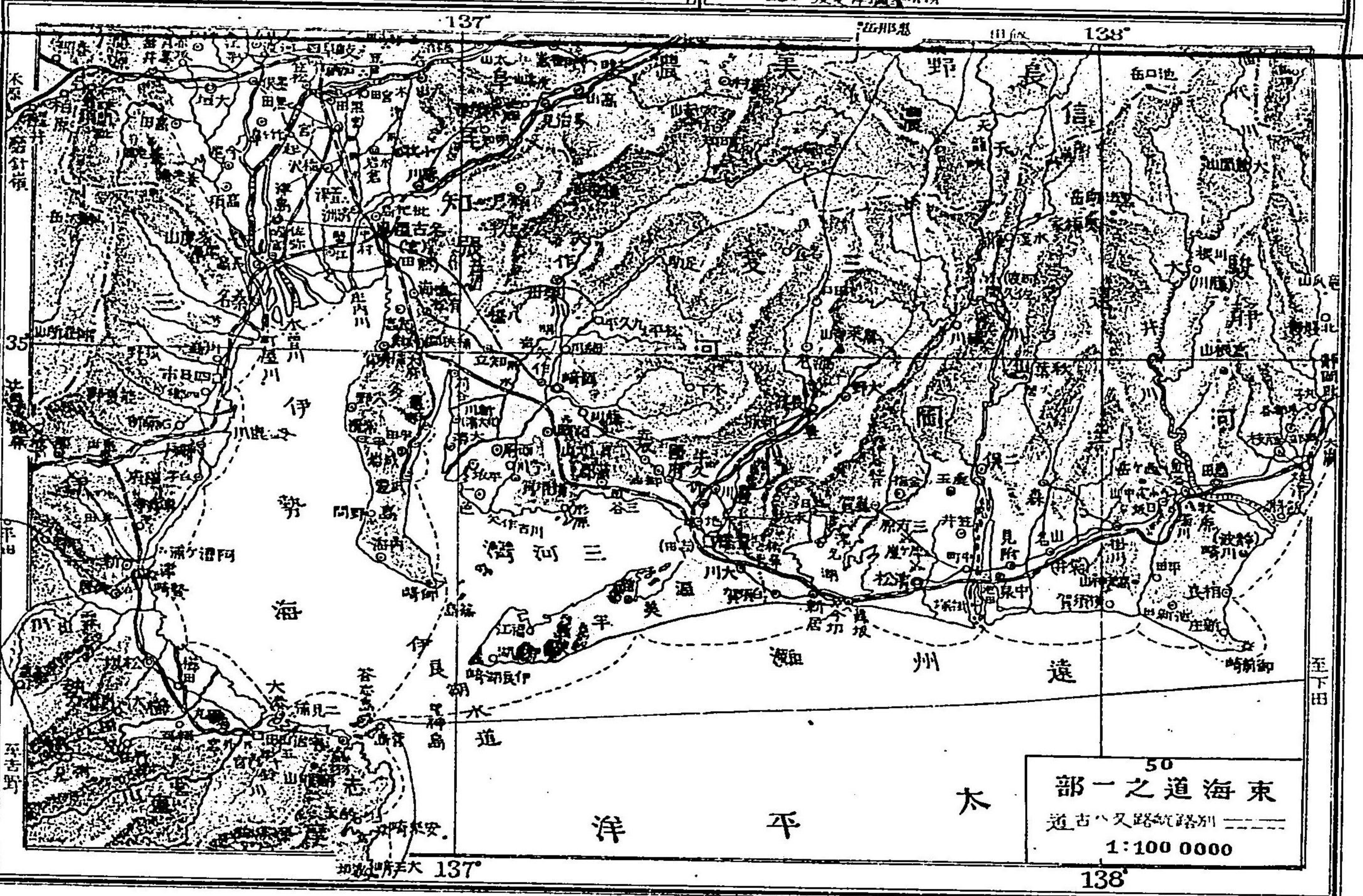
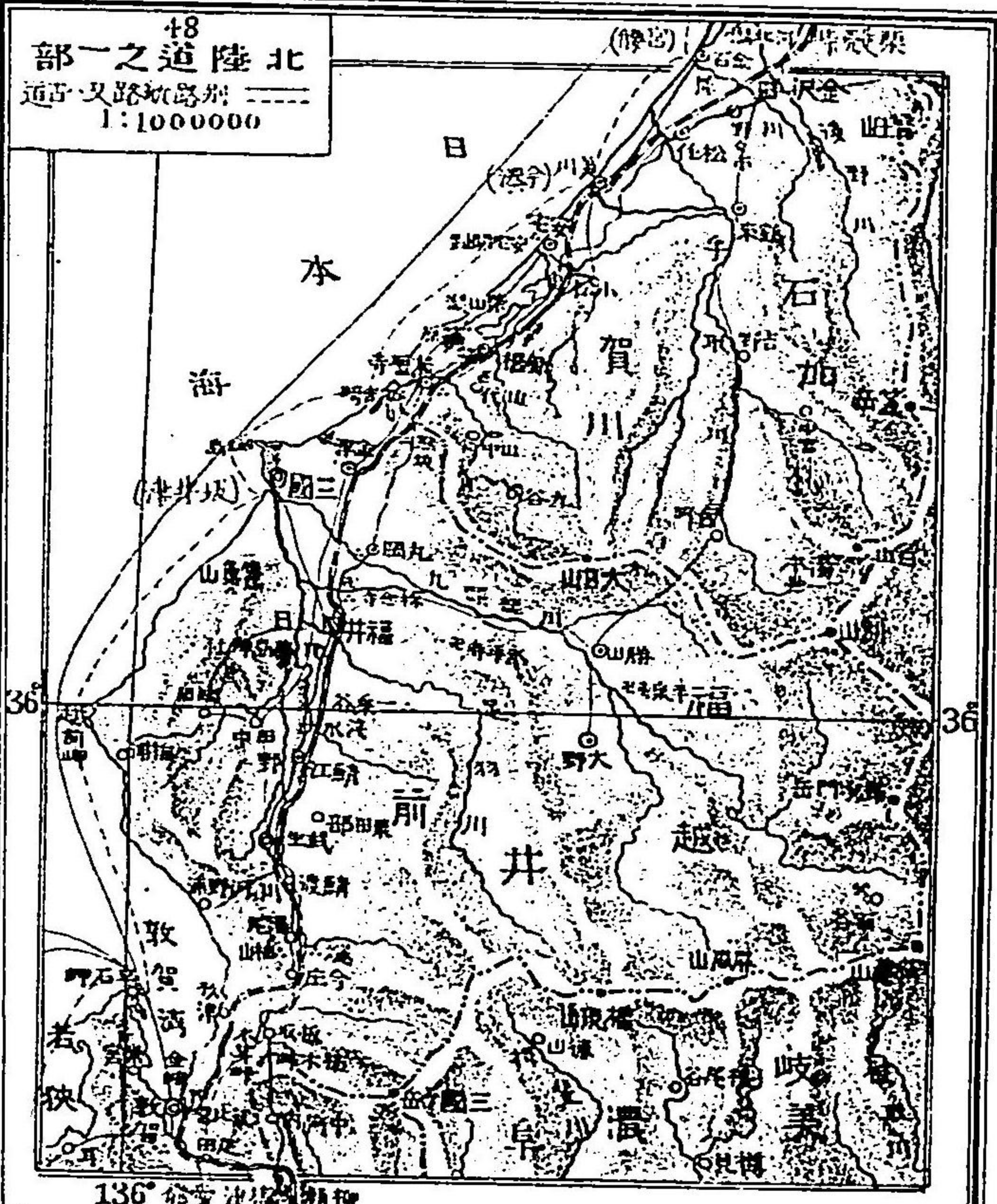
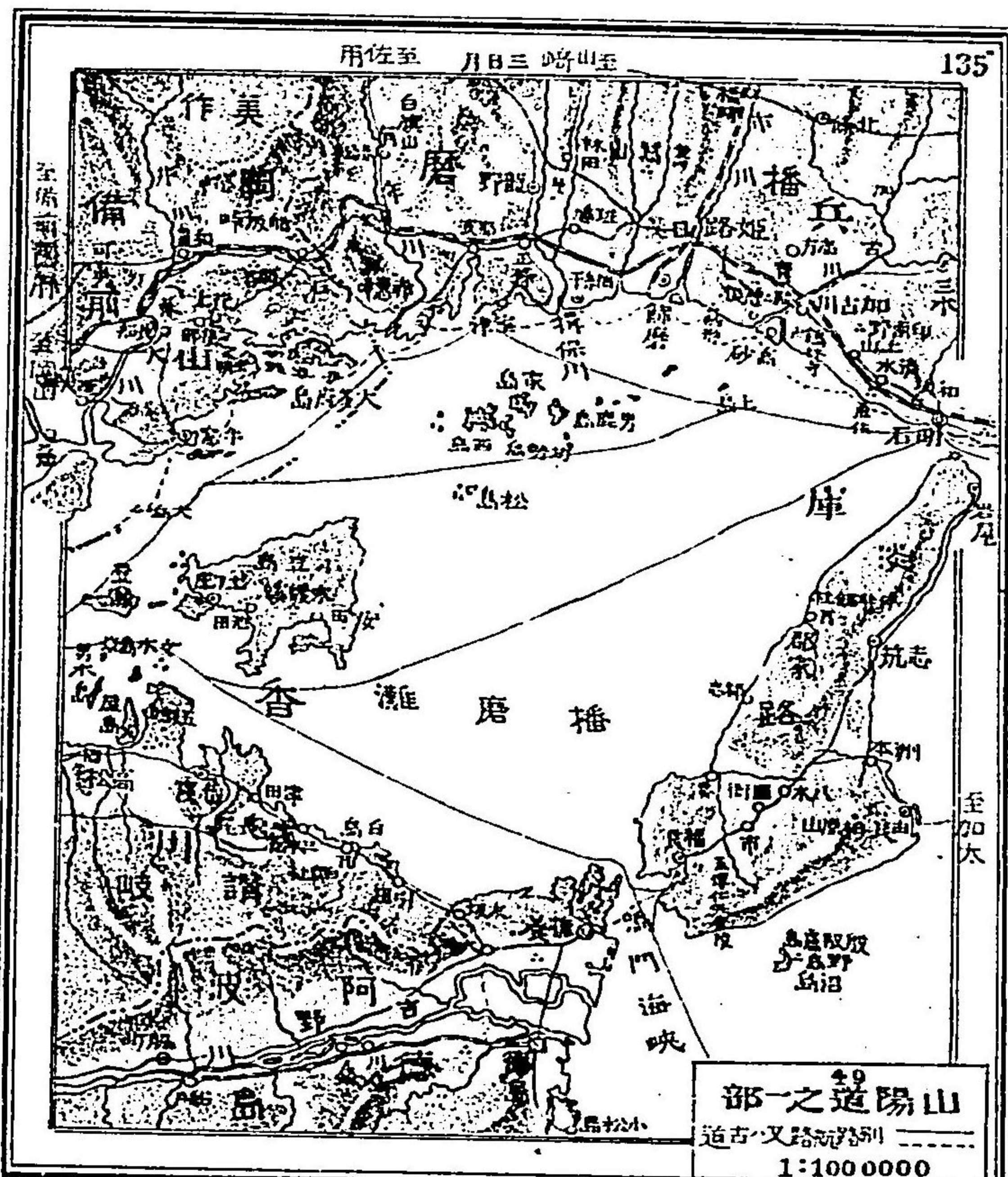
35°
 京東
 1:50,000

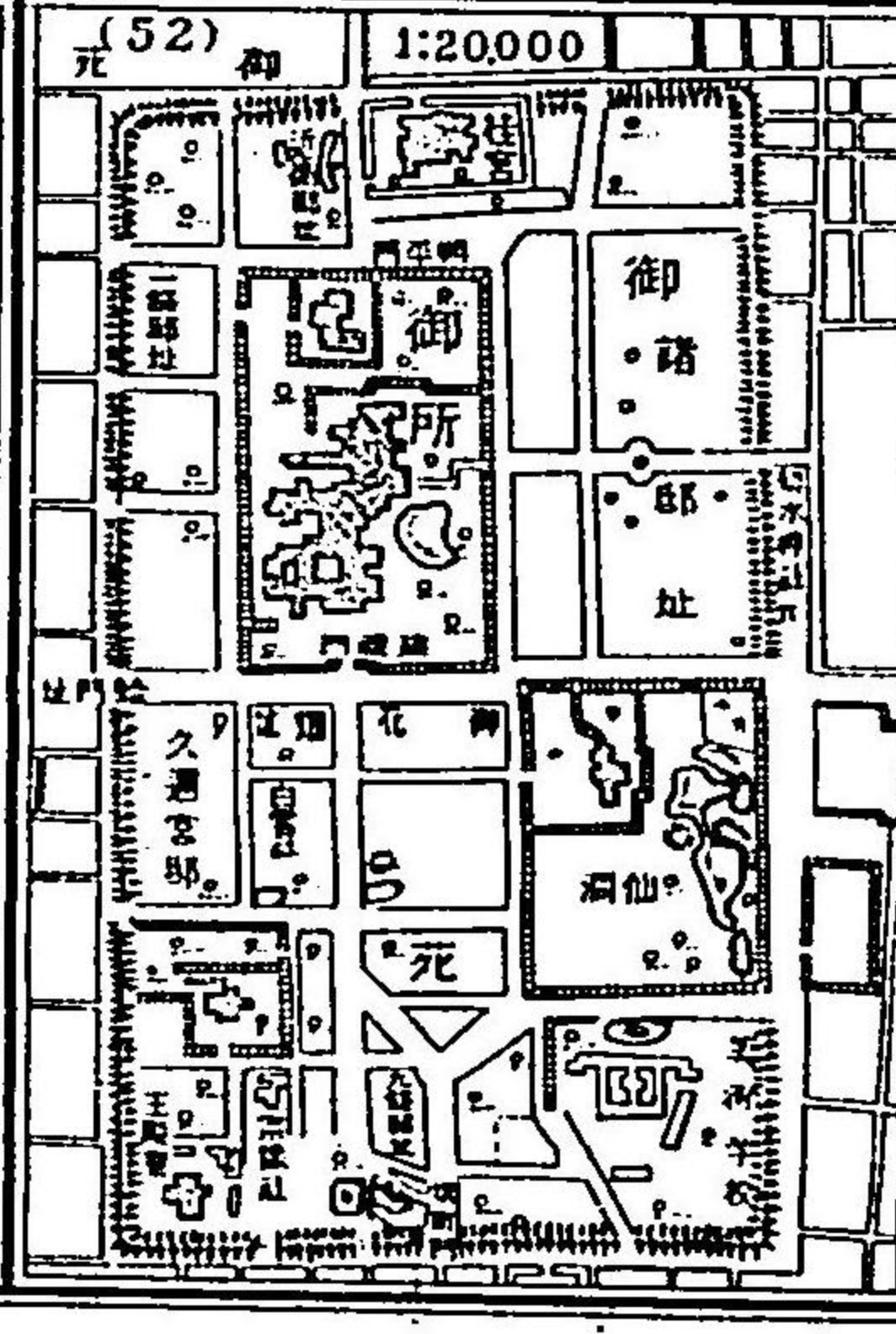
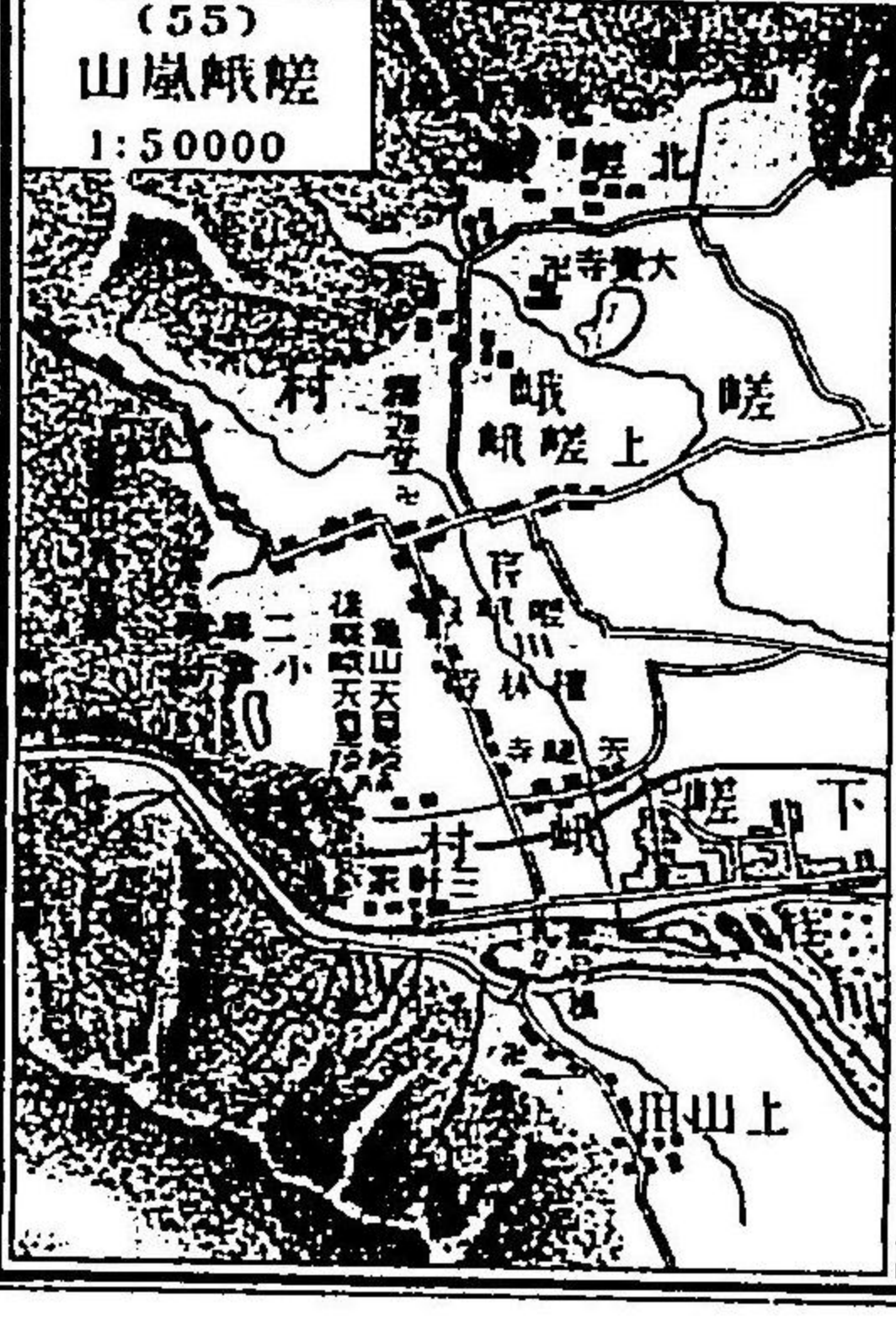
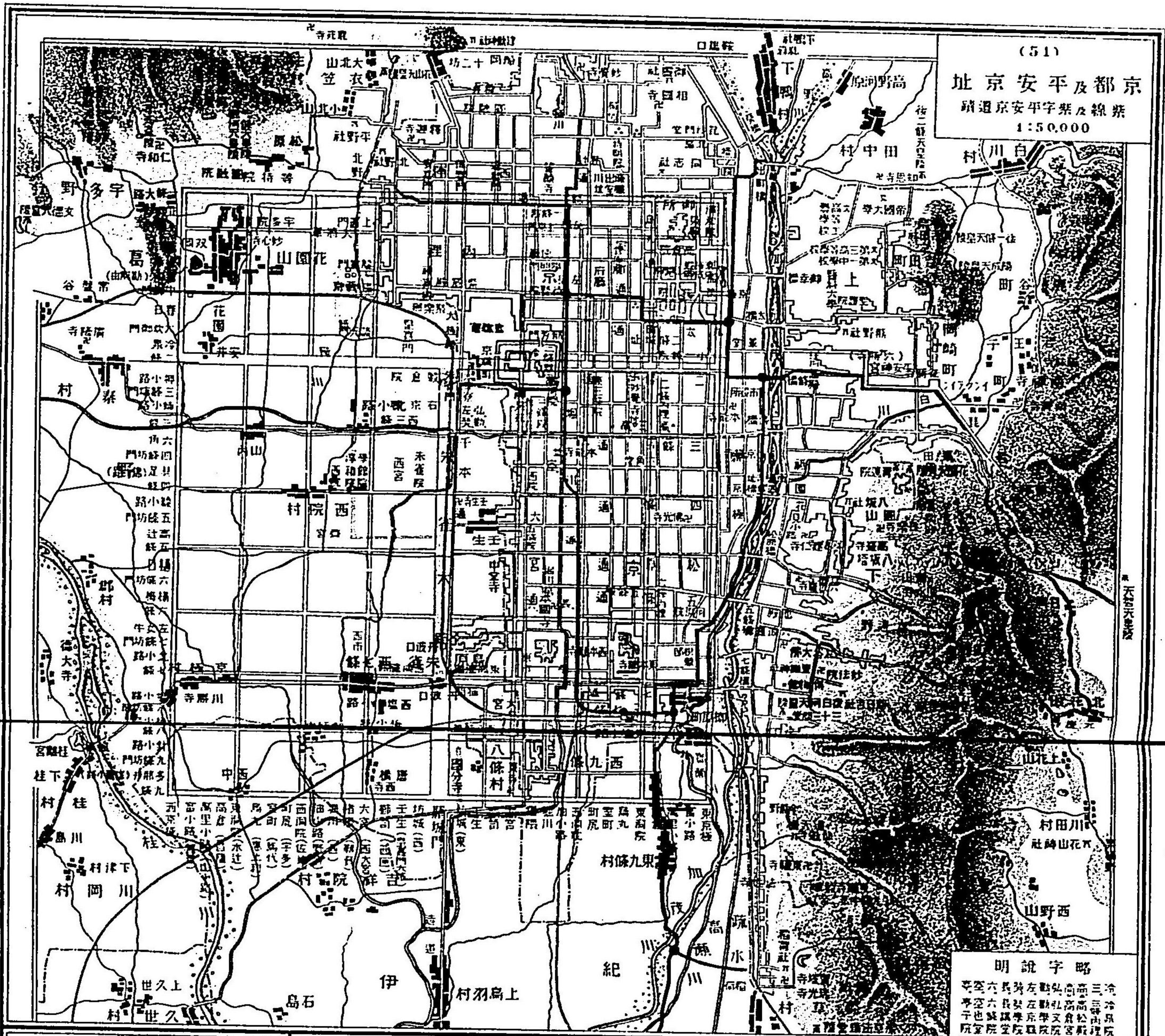
34°
 (二)部要東關
 1:1,000,000

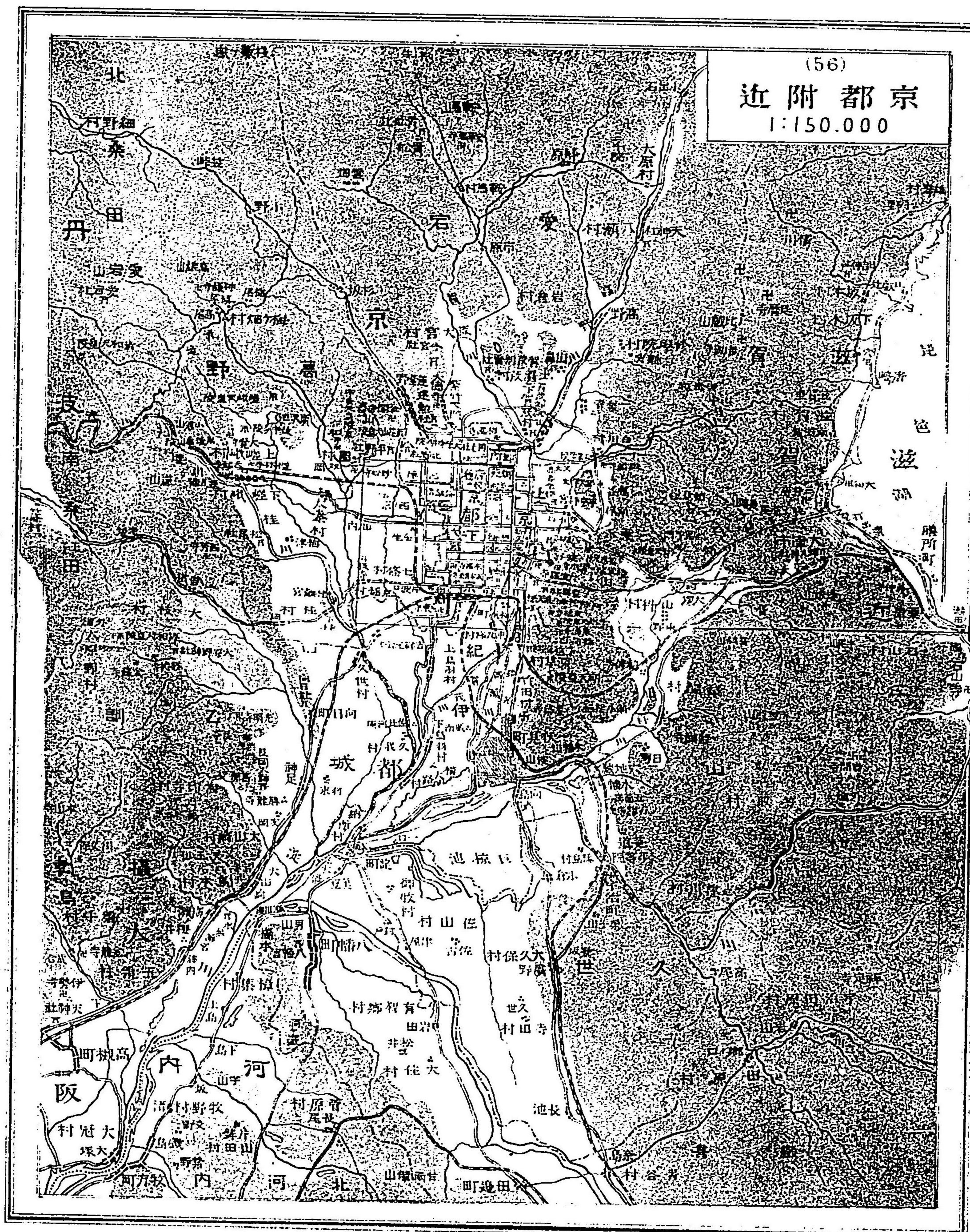
140'

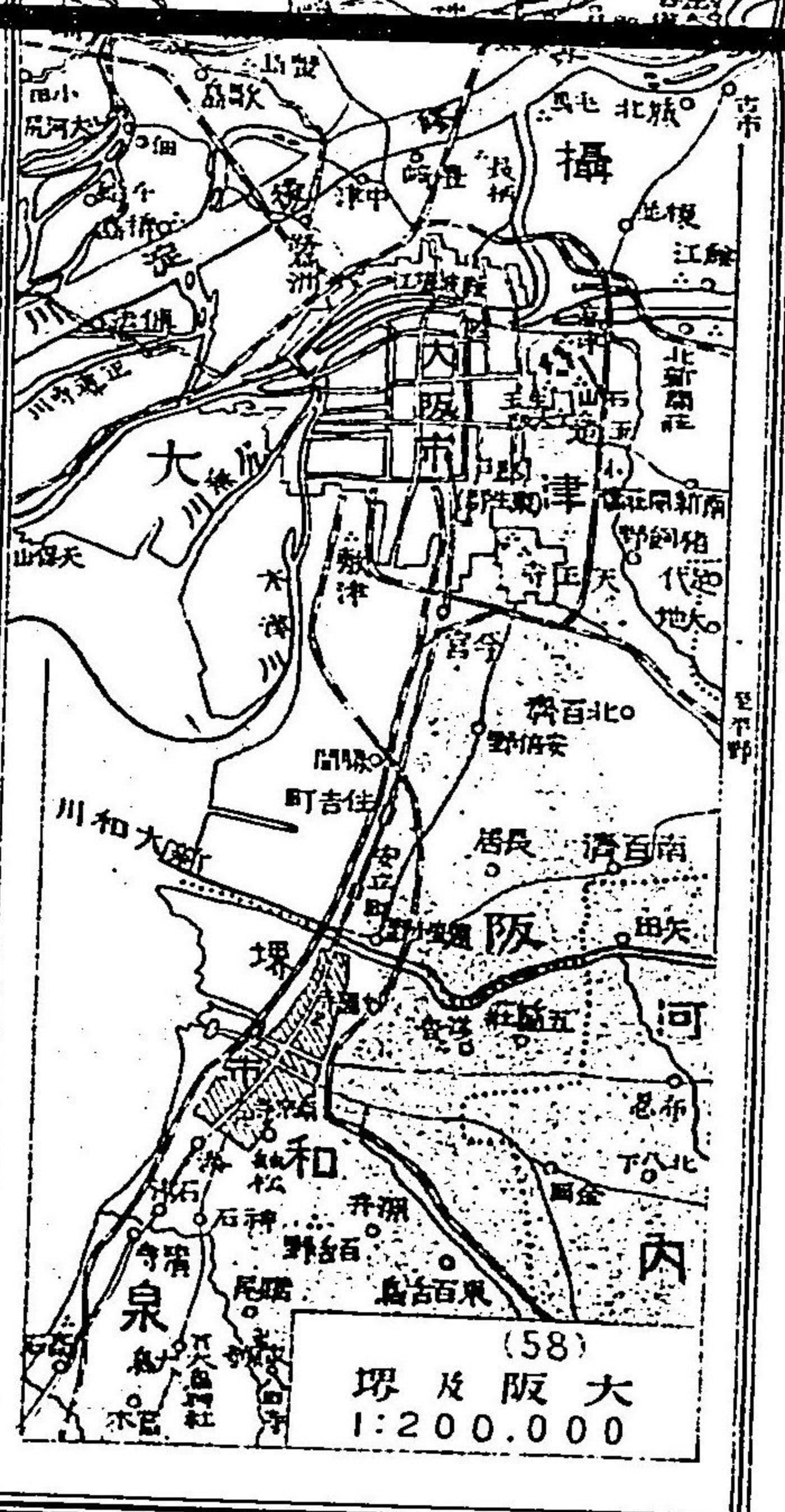
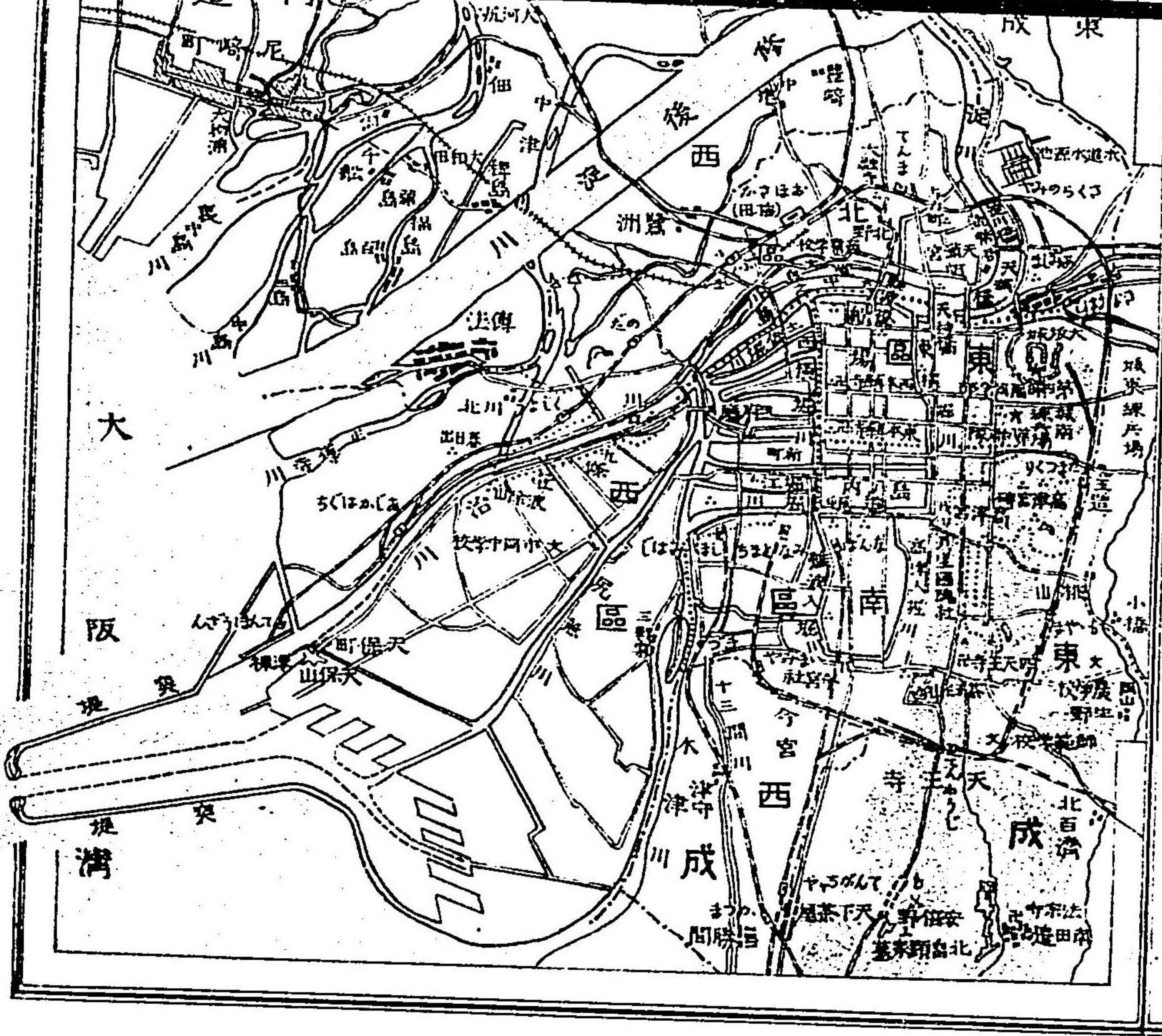
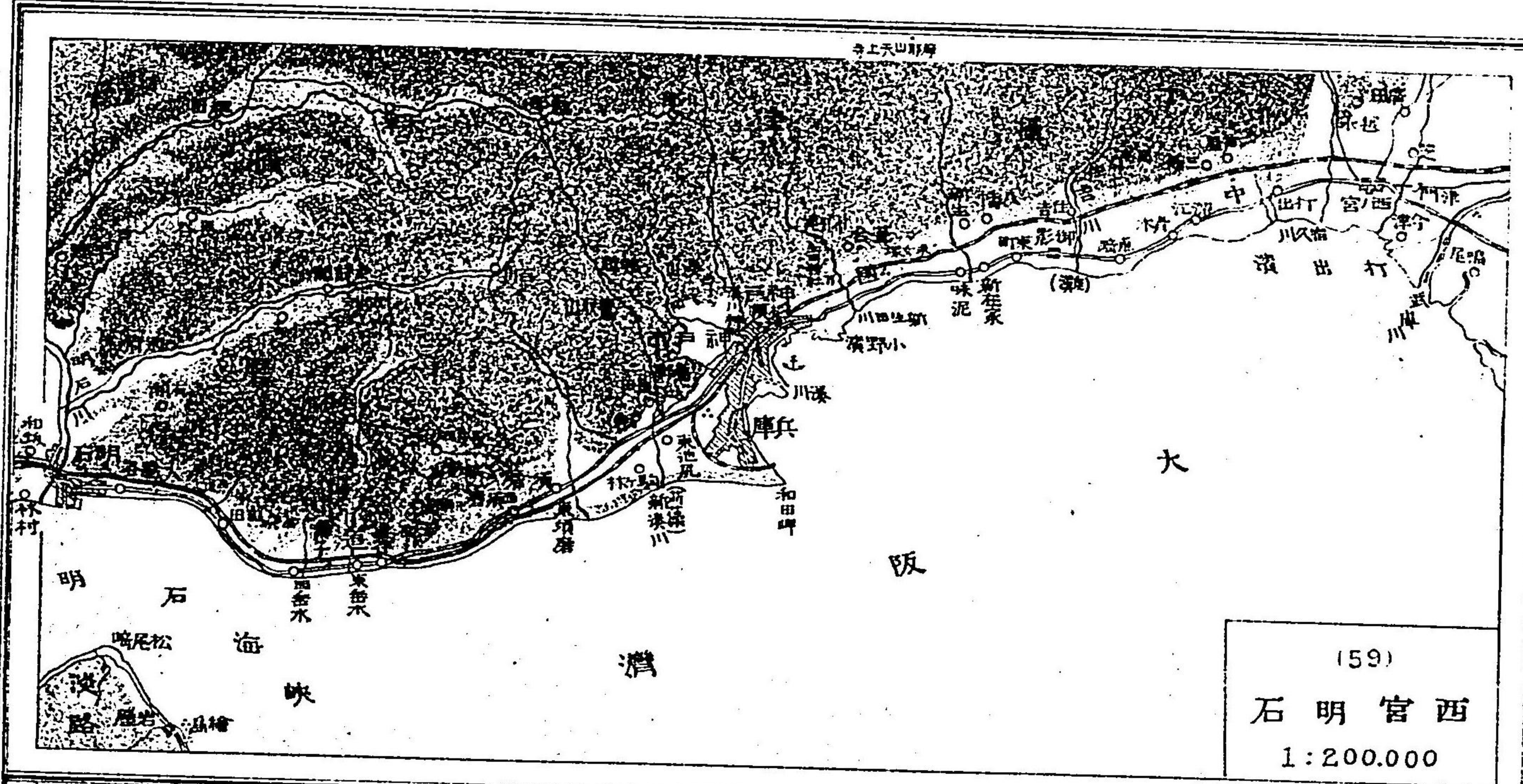


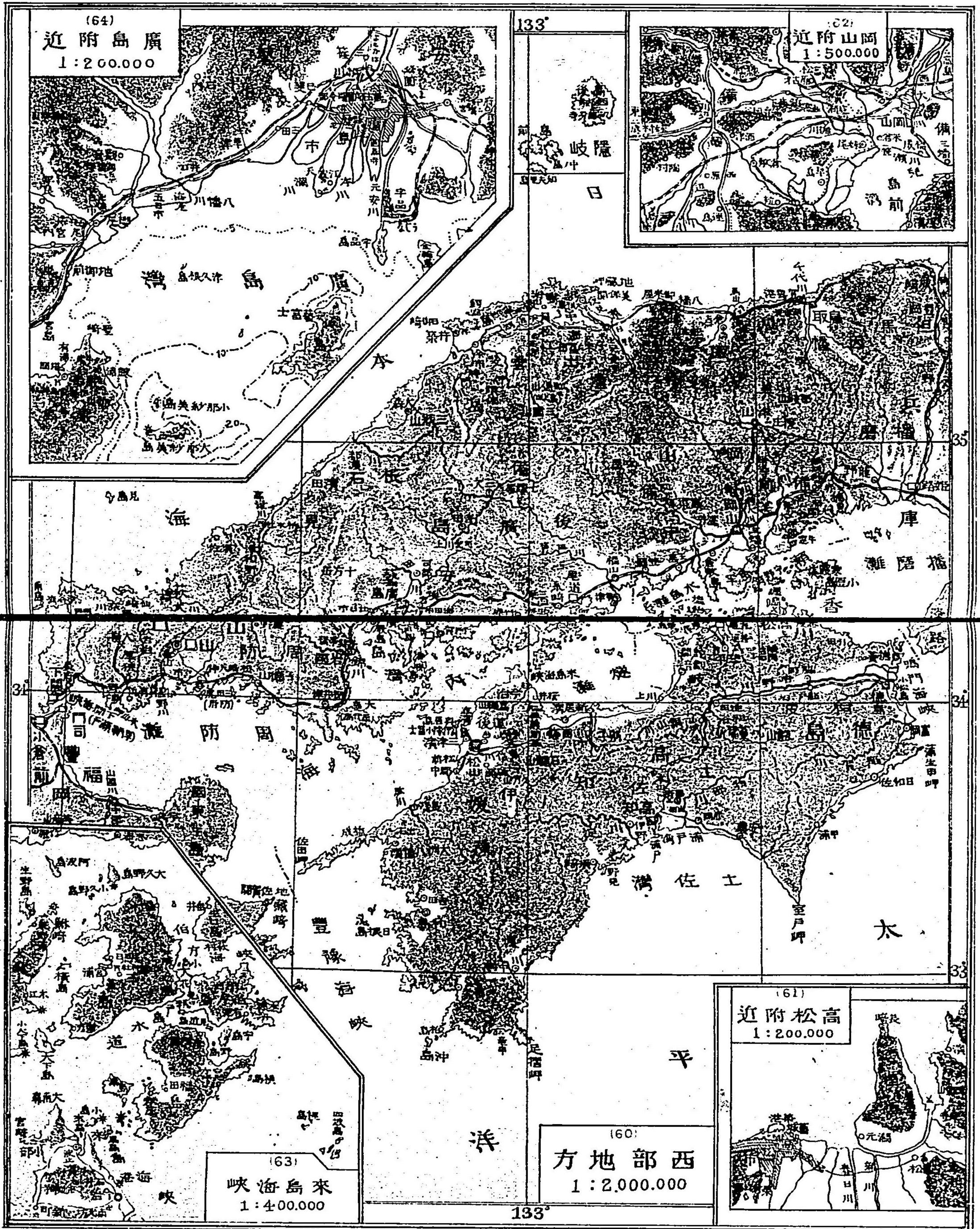


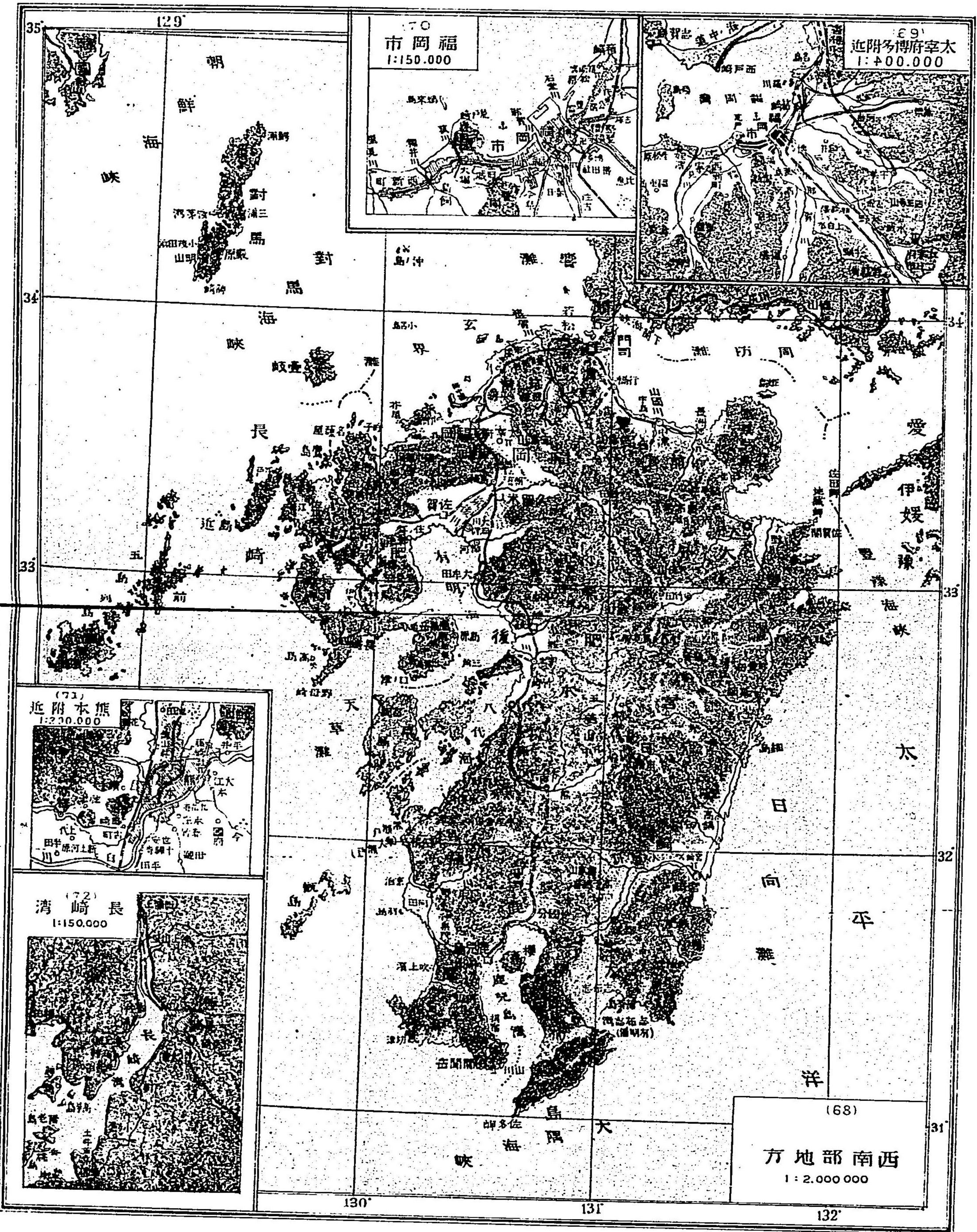


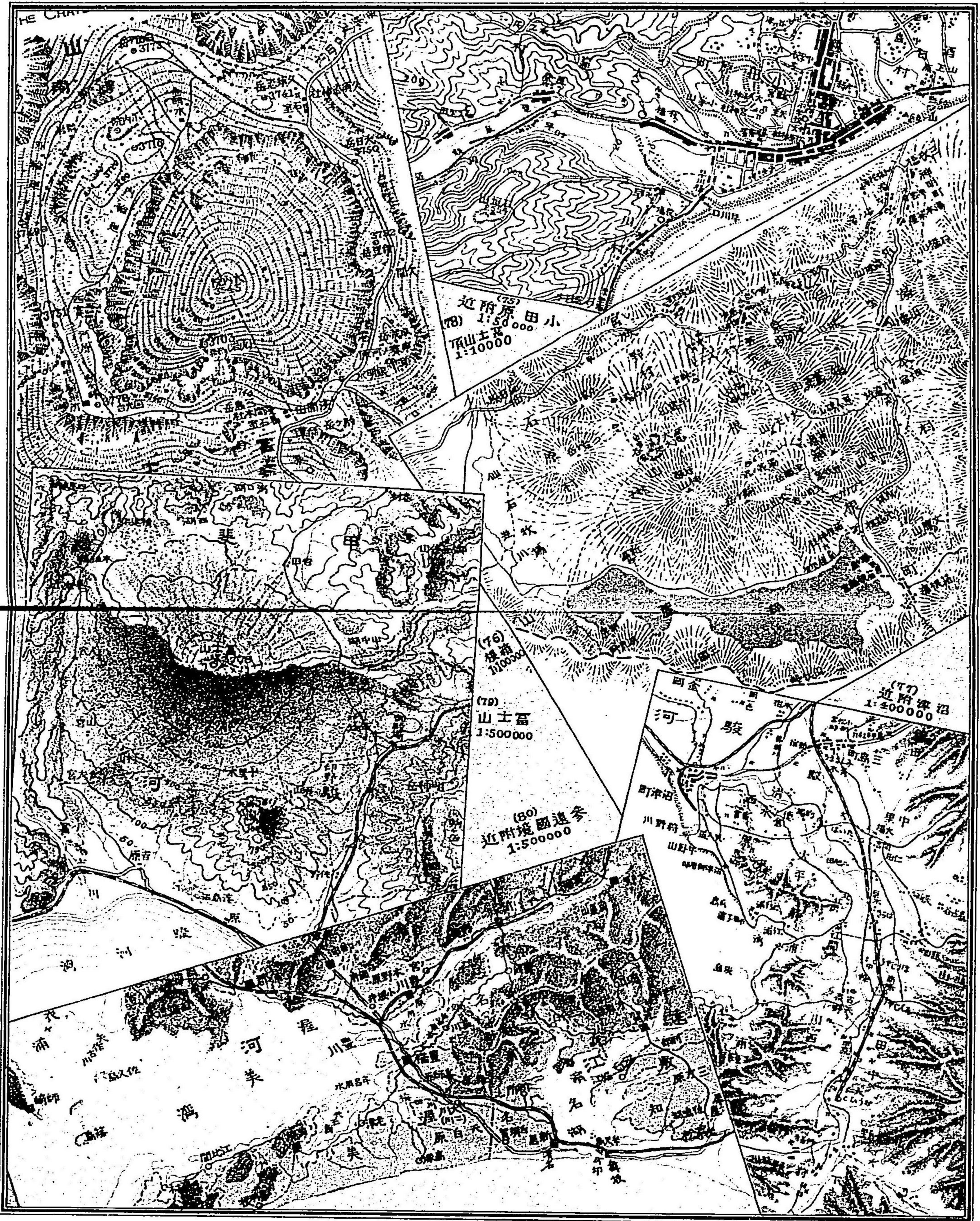












新編國民地圖附載 挿入圖書

新編國民地圖附載挿入圖書は主としては附録各論の間に挿入してその参照用に供すべきものなれども今その中に就き特に本篇各地圖の補遺となり得る第一乃至第六の六葉を抜きて分冊の上
に附載す其他の地圖繪書は附録各論と共に分冊の下に收録すべし

生物と人類(人事地理學の一節)

日本住民の大部分を爲せる農家の年中行事は米の生育の季節に關係し農家の購買力を基礎とせる地方都會の農工業者も自づから之と風俗を同じくす其他漁業地方に於ては漁すべき魚の來去の季節牧畜業地方果樹栽培地方に於ても又之と同一事情の季節に種々の儀式自づから行はるゝに至るなり斯の如くにして生物は主として人類の生活状態に影響して風俗の基礎となり延びて一國民の氣質相違の原因の一部ともなるなり

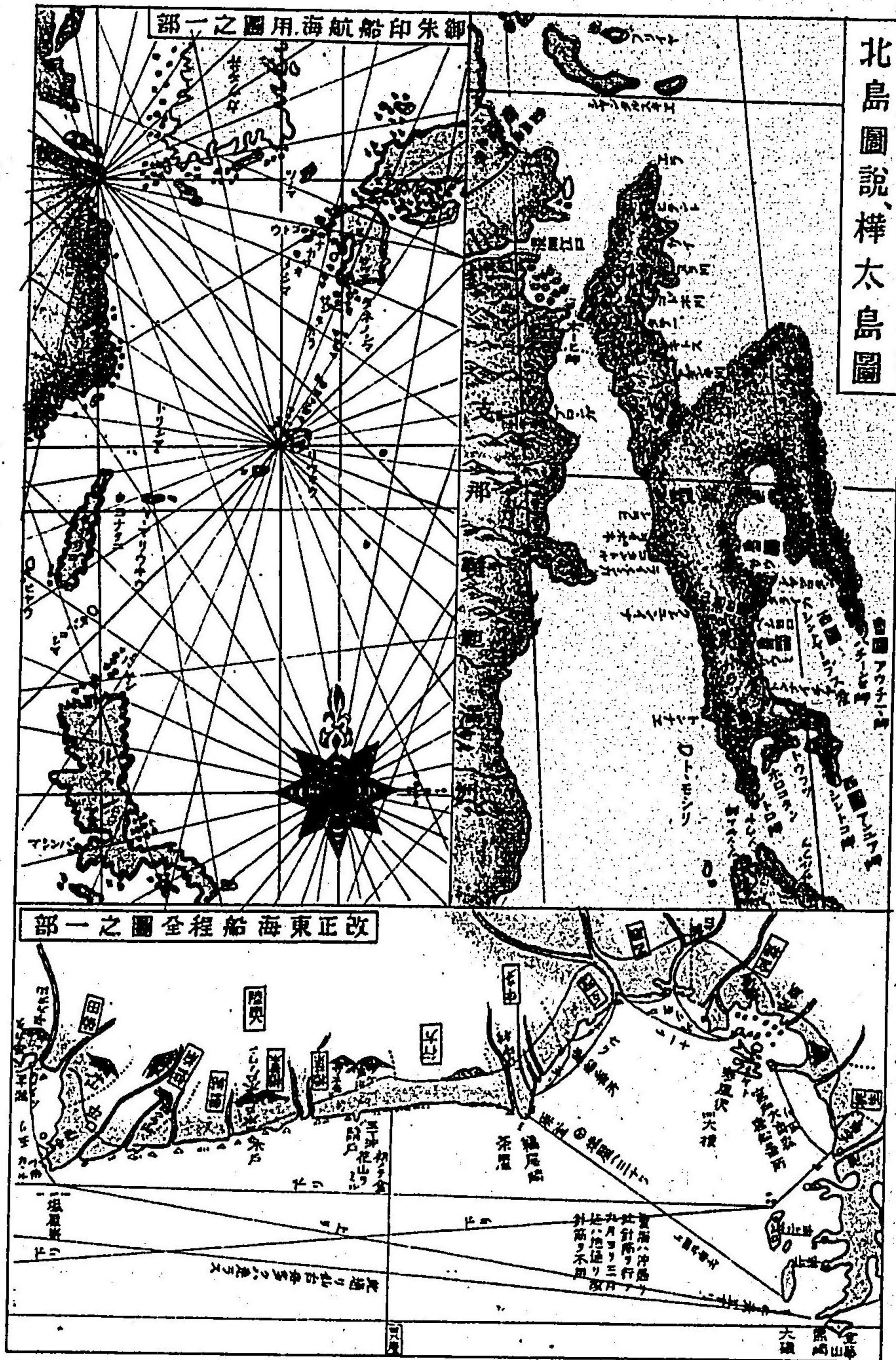
一旦地球上の各地に分布散在して多少の年月を経たる人類の各種屬が大移轉を爲すことの容易ならざるは風土の變化と食物の變化とがその生活状態を不安ならしむることを恐れてなり故に古來民族の移動は隣接せる境界線を一進一退し或は海上交通の便利によりて風土の大變化なき地方に來住するを常としその後漸次に事情の明白となるに及び相當の設備を爲して新移住地に住居するに至るものとす

然れども近世文明の發達と共に交通機關其他に大改良施され大規模の移住行はれ大植民地の設計等行はるゝに至れり其事情は後節に於て記述すべし

新編國民地圖挿入繪畫

第一

北島圖說、樺太島圖



生物と人類(人事地理學の一節)

日本住民の大部分を爲せる農家の年中行事は米の生育の季節に係り農家の購買力を基礎とせる地方都會の農工業者も自づから之と風俗を同じくす其他漁業地方に於ては漁すべき魚の來去の季節牧畜業地方果樹栽培地方に於ても又之と同一事情の季節に種々の儀式自づから行はるゝに至るなり斯の如くにして生物は主として人類の生活状態に影響して風俗の基礎となり延びて一國民の氣質相違の源因の一部ともなるなり

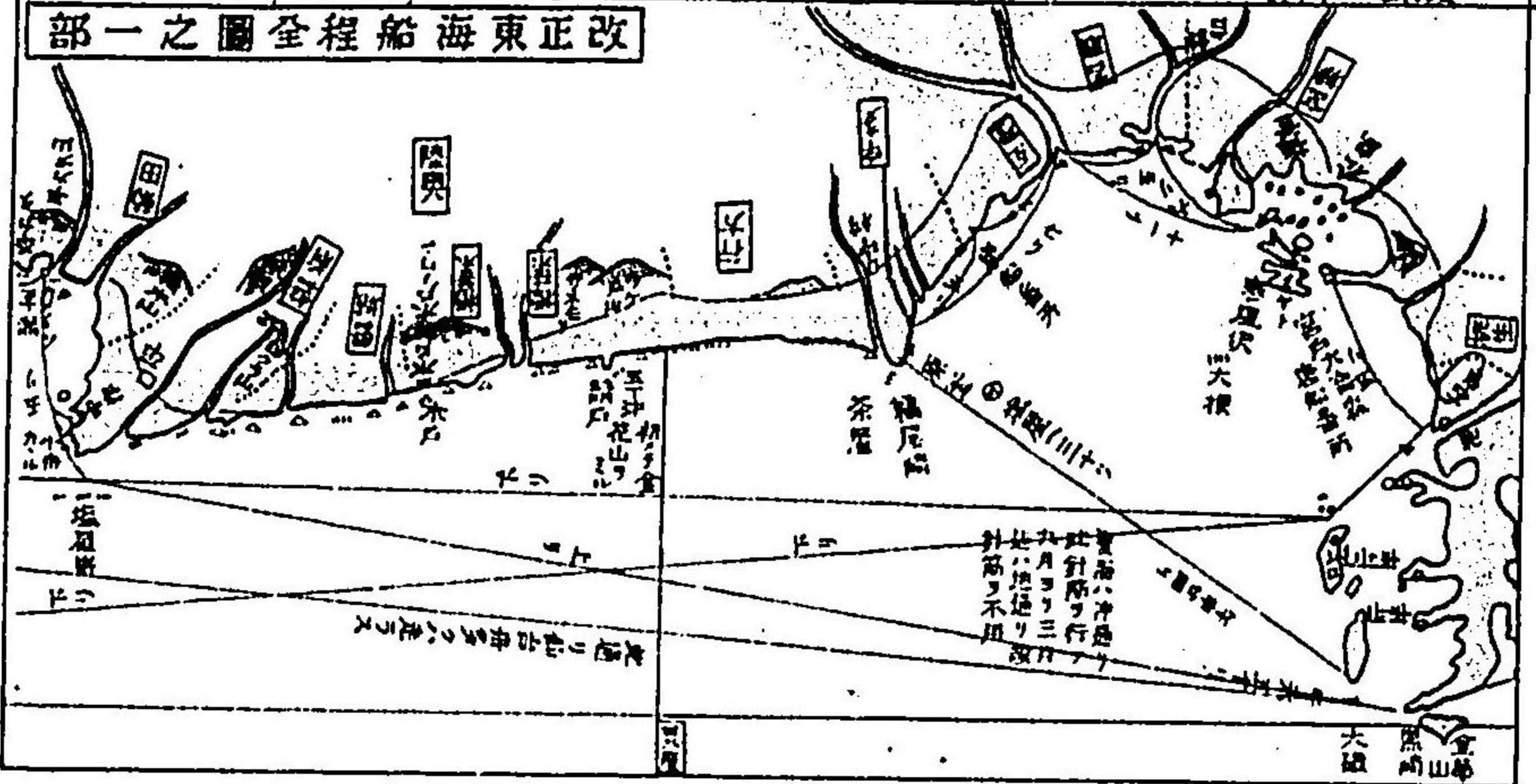
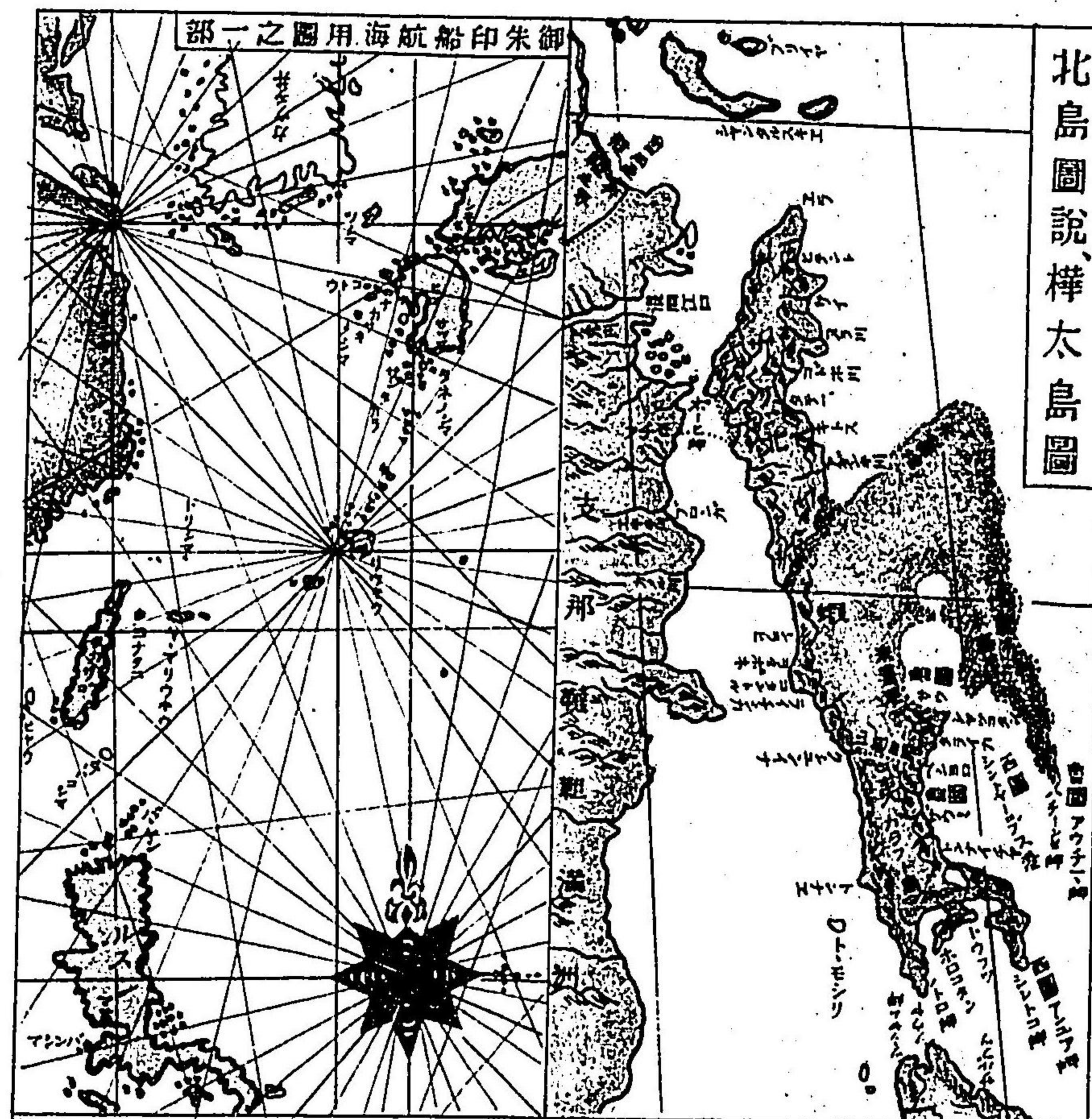
一旦地球上の各地に分布散在して多少の年月を経たる人類の各種屬が大移轉を爲すことの容易ならざるは風土の變化と食物の變化とがその生活状態を不安ならしむることを恐れてなり故に古來民族の移動は隣接せる境界線を一進一退し或は海上交通の便利によりて風土の大變化なき地方に來住するを常としその後漸次に事情の明白となるに及び相當の設備を爲して新移住地に住居するに至るものとす

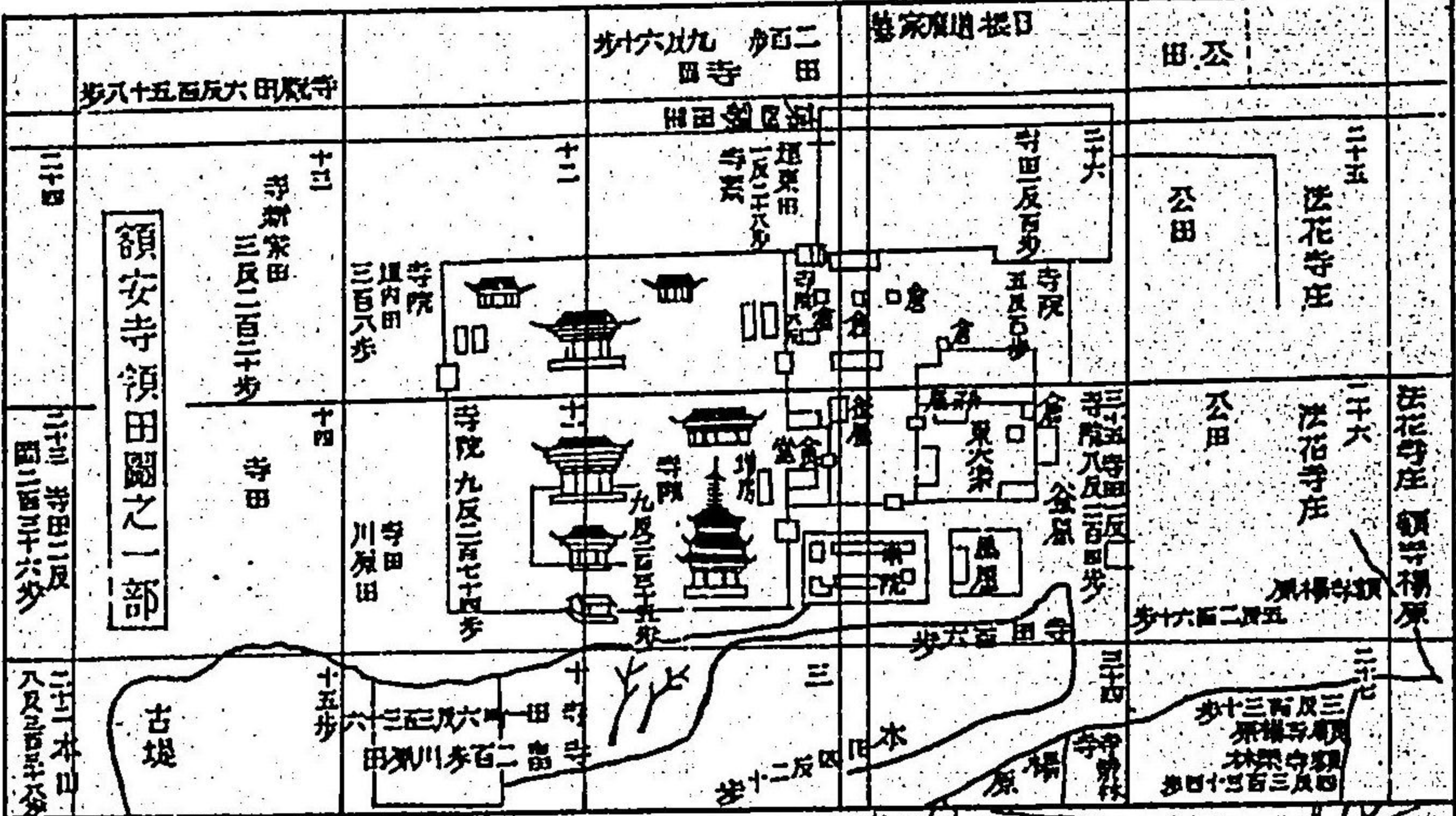
然れども近世文明の發達と共に交通機關其他に大改實施され大規模の移住行はれ大植民地の設計等行はるゝに至れり其事情は後節に於て記述すべし

新編國民地圖挿入繪畫

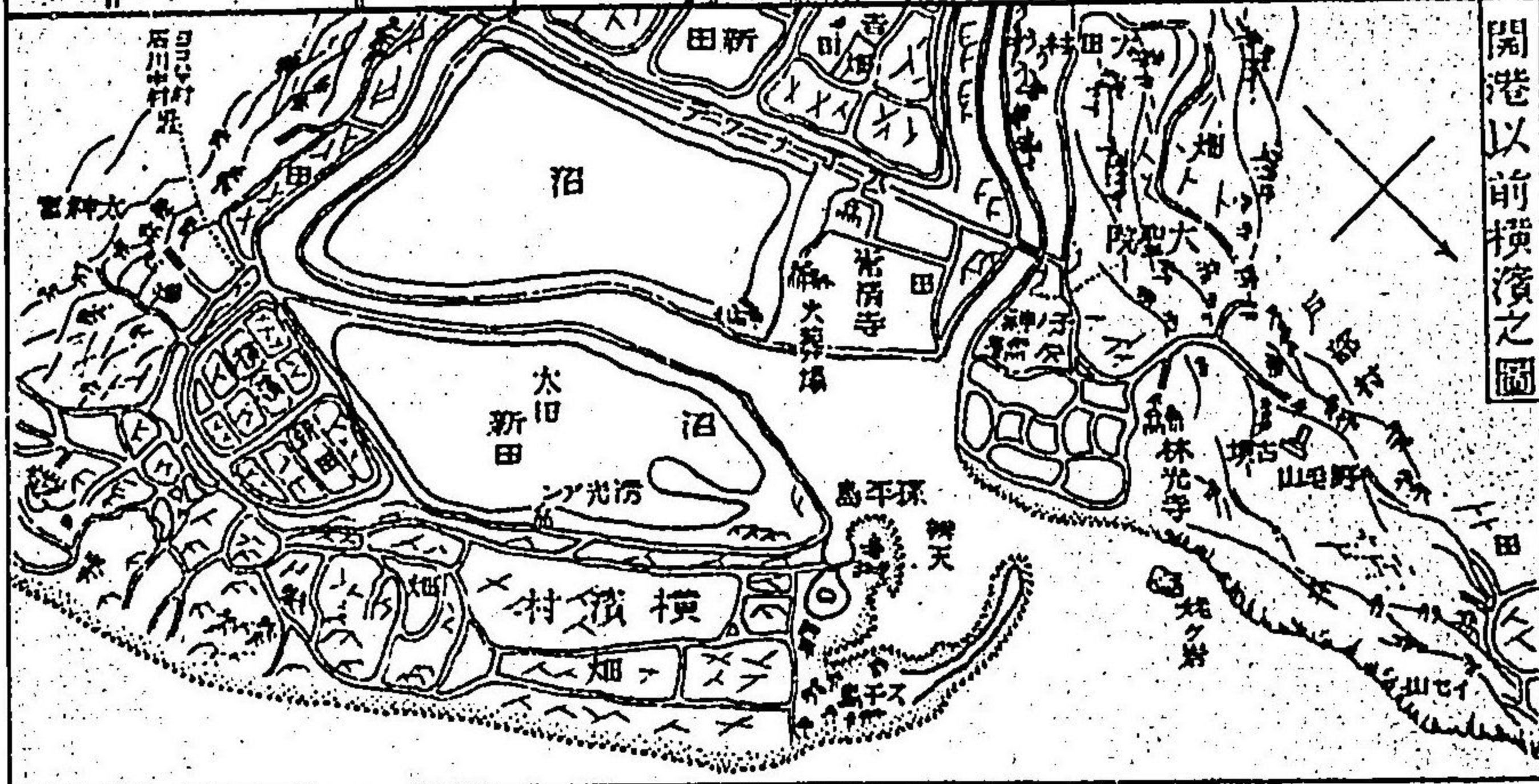
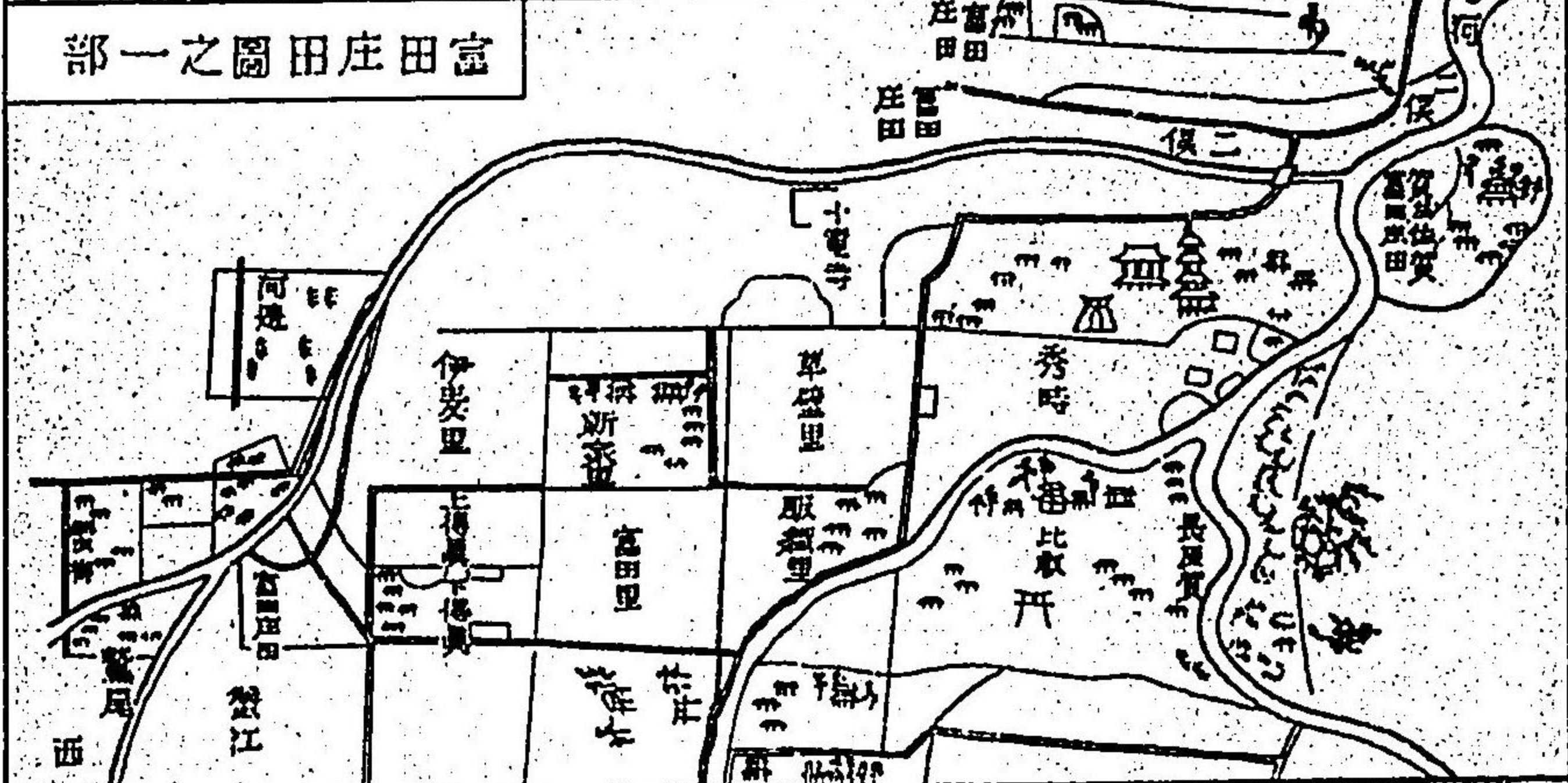
第一

北島圖說、樺太島圖

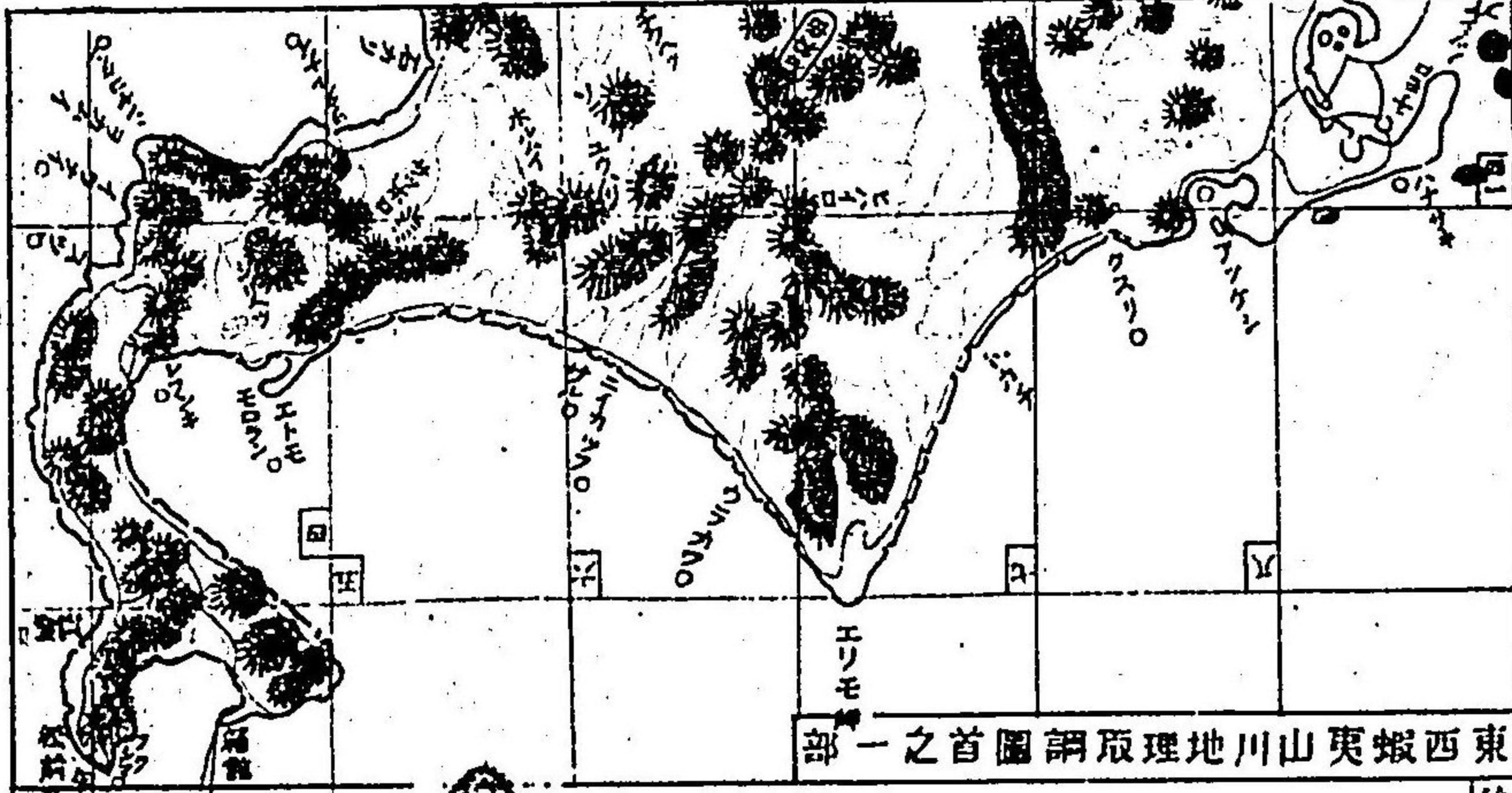




部一之圖田庄田富



開港以前横濱之圖



東西南夷山川地理圖之首一



古蹟之後三年



國大曆播末時代川德之圖

新編國民地圖分冊之上の後に書す

本書の草稿たる日本地理特に関係ある遼東の地圖の出来上りたのは四十二年の春で印刷には夏の初からかゝりて之を夏季講習會で使用したのは夏の真中でありました引續いて修訂追補の出版する計畫で製圖彫刻印刷とも相當に督勵はして居たのでありますがその間關係ある凸版印刷會社員の退社など色々事件が起つて兎角後れ勝となつて居りました四十二年の春即ち本書起稿の一周年に及んでその再版たる新編國民地圖は校正も完成して居らぬ有様でありました夫では洵に困るのでありますから嚴重に書肆印刷會社の各方面を督促しまして兎も角も地圖をまとめて分冊之上とし急ぎ出版する事と致しました分冊之下は主に活版による事でありまして是は引續き間もなく出来上る豫定であります尙著者の希望を申しますと其前か後でもよろしいが分冊之中として北城南城即ち樺太北海道海沖繩臺灣は勿論の事新城とも云ふべき韓國及び南滿州地方續いては國民の

事業に關係深き東亞及び印度地方並に太平洋各方面の地理の概要をも述べて見たいのであります追々と實現の日の近からんことを祈りて居ります

明治四十三年五月

著者 誠

四十二年の春この地圖の下案を作り終へつるときに不忍の池に音を鳴くかりかれのはかりかれつるこれの道がも同じ年の夏人々の勤むるまゝにこの地圖を世に公にすることに思ひ定めて武藏なる彌生岡の名なし草をたにひくやゆかりあるかに

明治四十二年九月廿二日第一版(日本地理 特別に國文圖史に地圖印刷)
明治四十二年九月廿五日第一版發行
明治四十三年五月廿一日第二版改名新編國民地圖(上)印刷
明治四十三年五月廿一日第二版發行



新編國民地圖
不允翻刻
不許翻譯
定價金壹圓也

著者 原 秀四郎

東京市小石川區久堅町七拾四番地

發行所

辻本 卯藏

東京市神田區猿樂町貳番地

印刷所

日清印刷株式會社

東京市牛込區板町七番地

印刷所

凸版印刷株式會社

東京市下谷區二長町一番地

印刷所

小林印刷所

東京市麹町區半町廿一番地

發行所

東京市神田區猿樂町貳番地

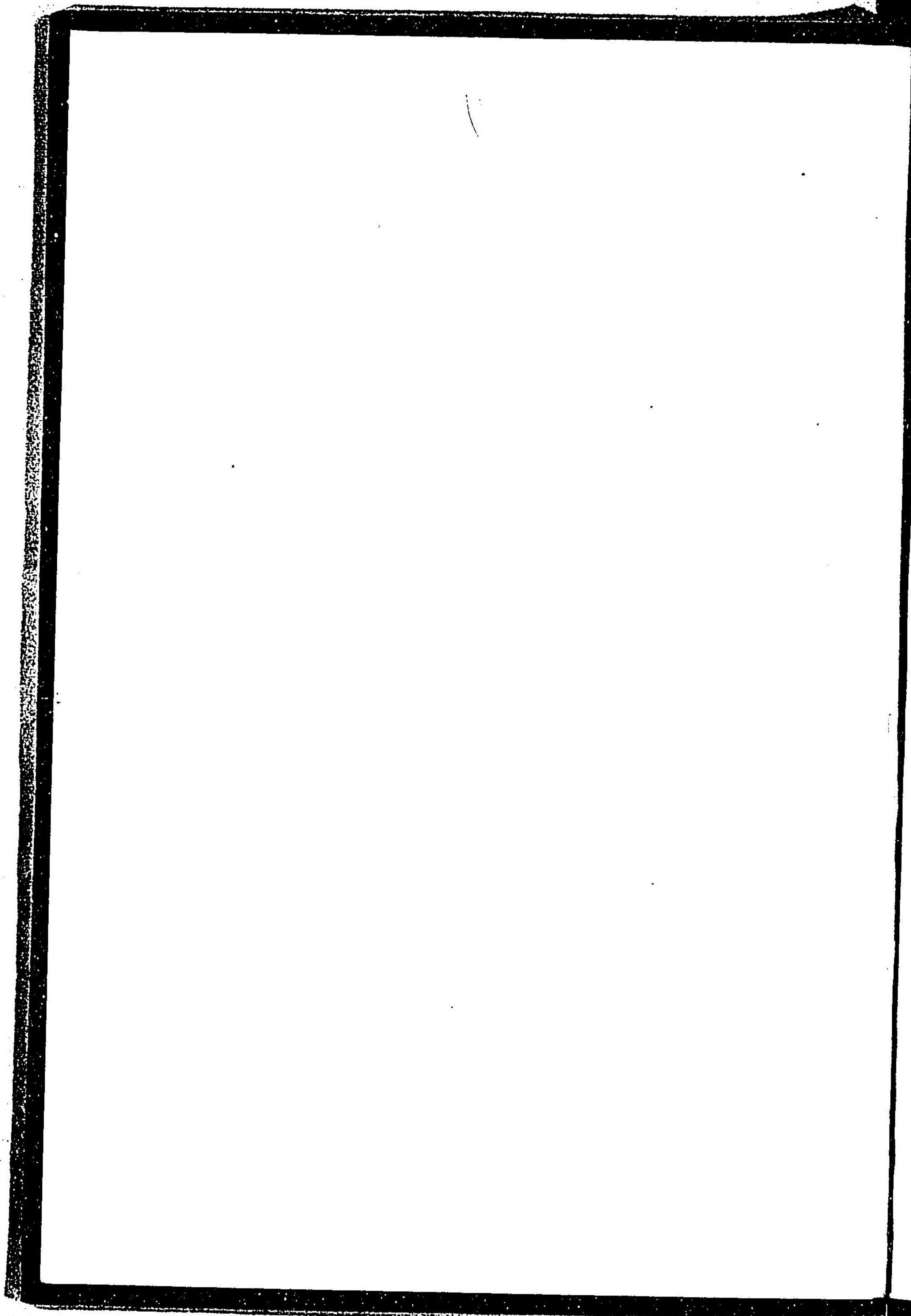
弘道館

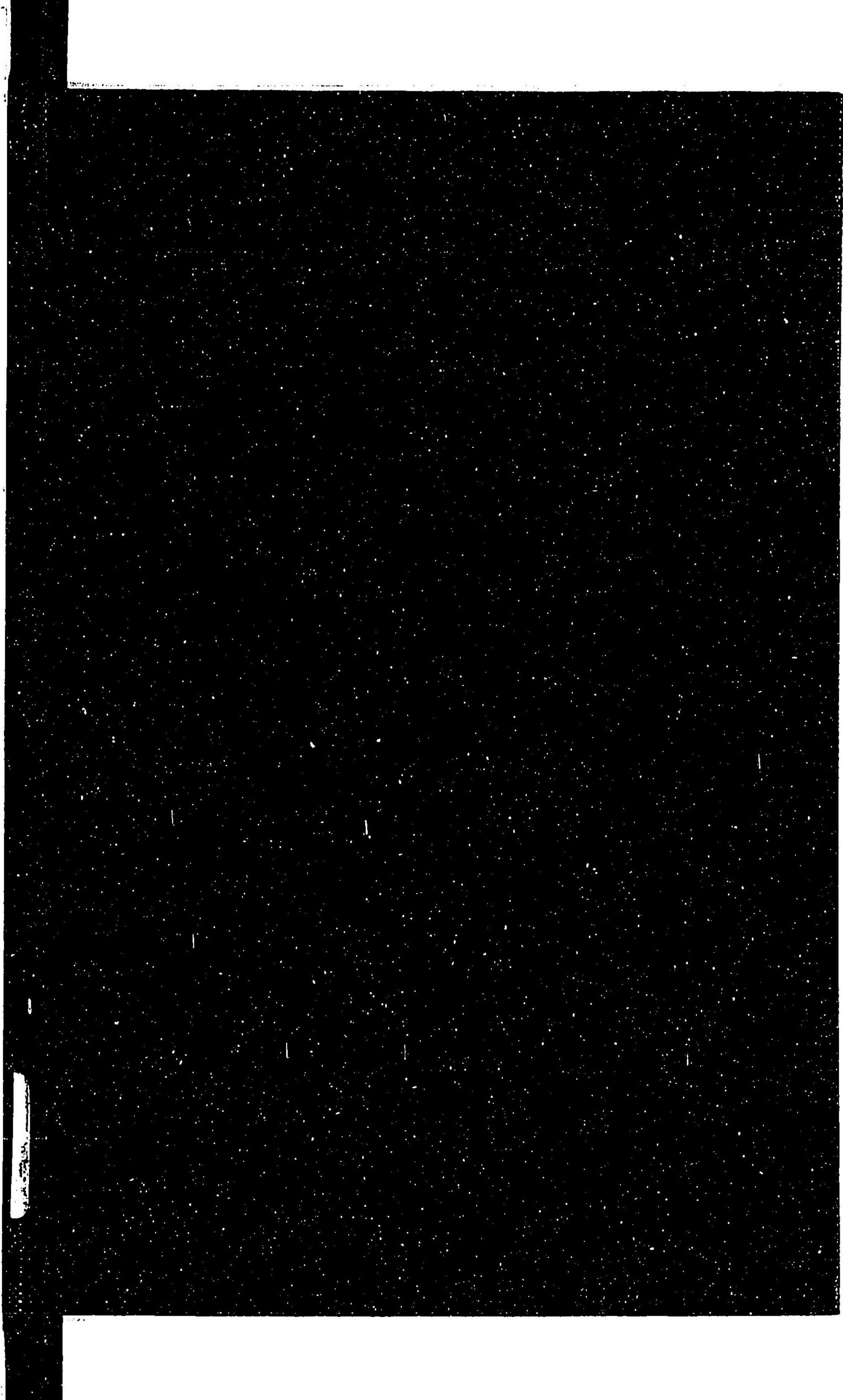
備考

卷頭圖書第貳(平城京太宰府)第三面第十六面製圖分擔……………河津
 扉卷頭圖書第壹(日本全景古圖)及び挿入圖書第壹乃至第六製圖分擔……………大智
 第壹面乃至第十八面の内第三面第十六面を除きたる全部製圖分擔……………木崎
 題辭凡例目次序説附録扉等活版による印刷分擔……………日清印刷會社
 卷頭圖書第二及び第壹面乃至第十八面の内第二第十第一第十二第十八の四面を除きたる分の石版印刷分擔……………凸版印刷會社
 扉卷頭圖書第壹第二面第十一面第十二面第十八面及び挿入繪畫第壹乃至第六の石版印刷分擔……………小林印刷所

正誤(重なるもの)

第三面 長崎灣水面の立神の字の次へ「藤」の一字を加ふ
 第四面 上段の西洋數字番號二十四は二十一の誤につき訂正す
 第十四面 平安京址を示す紫色の線は少しく左に偏す。之を右に直して東京橋が三條以北の寺町通り即ち御所の東側の道と界一致する如くするを可とす又雷計の二字削る
 第十六面 下段地島の右傍鐵崎を補入す
 第十八面 箱根山上「湯花の澤」は「湯の花澤」
 挿入圖書 第四下段欽明天皇の下へ「陵」の字を加ふ
 同第五 慶州附近圖南川の下へ(蚊川)の二字を加え北川の下へ(阿利那禮)の四字を加ふ又北川の上流は遠く關外に及ぶ趣に改描す又州城西方の丘麓は川に接する如くに改描す
 同第六 讃岐國圖の柳縣を柳無と改む
 (其他御氣付の方は著者へ御一報被下度候)





327
257

027105-000-7

327-257

新編国民地図

原 秀四郎/著

M43

ADI-0129



